

61  
176



始

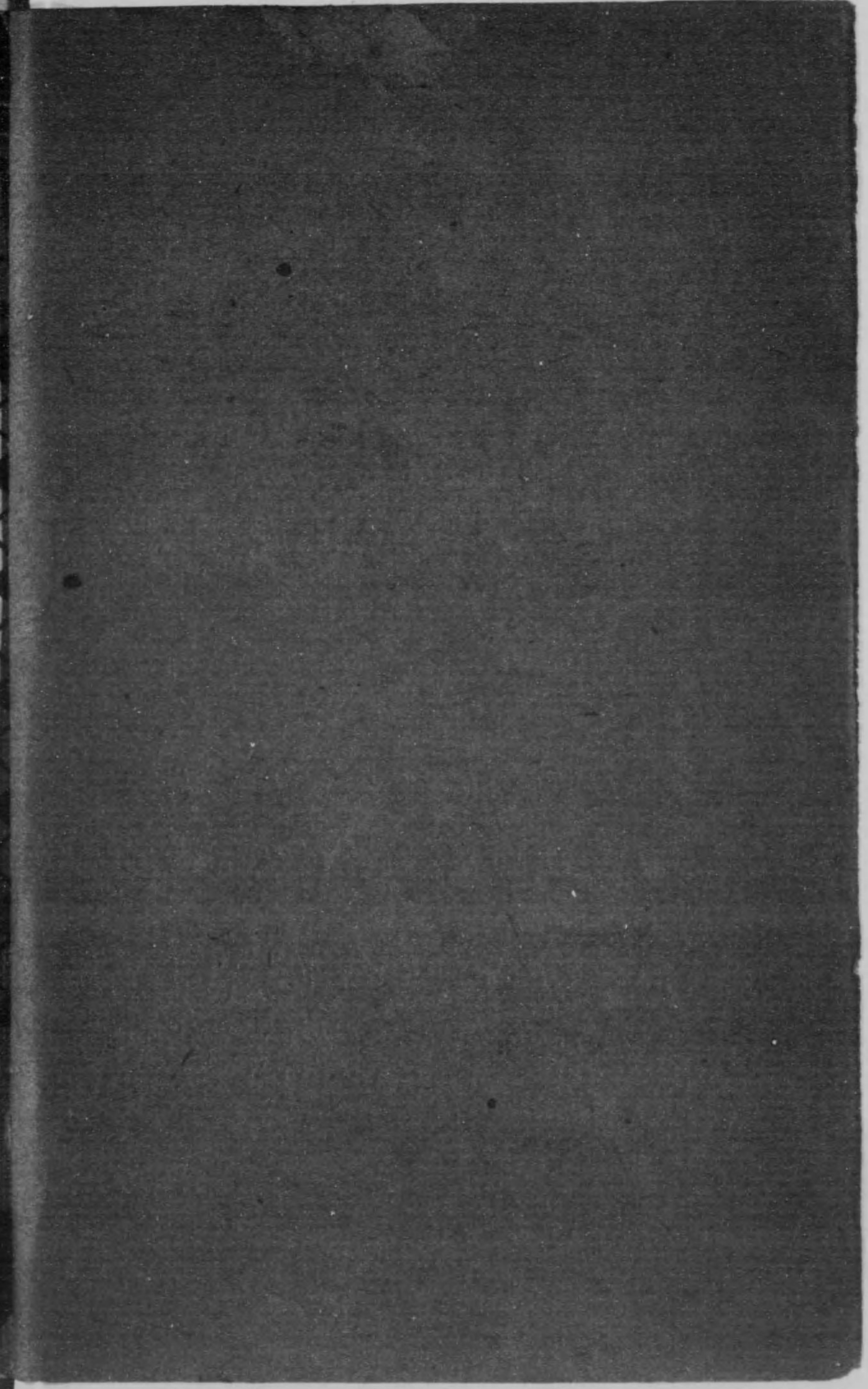






衛生小  
說

命





61-176



遠藤堯山著

命いのち

私立山梨縣衛生會

大正  
4. 8. 16  
内交





行







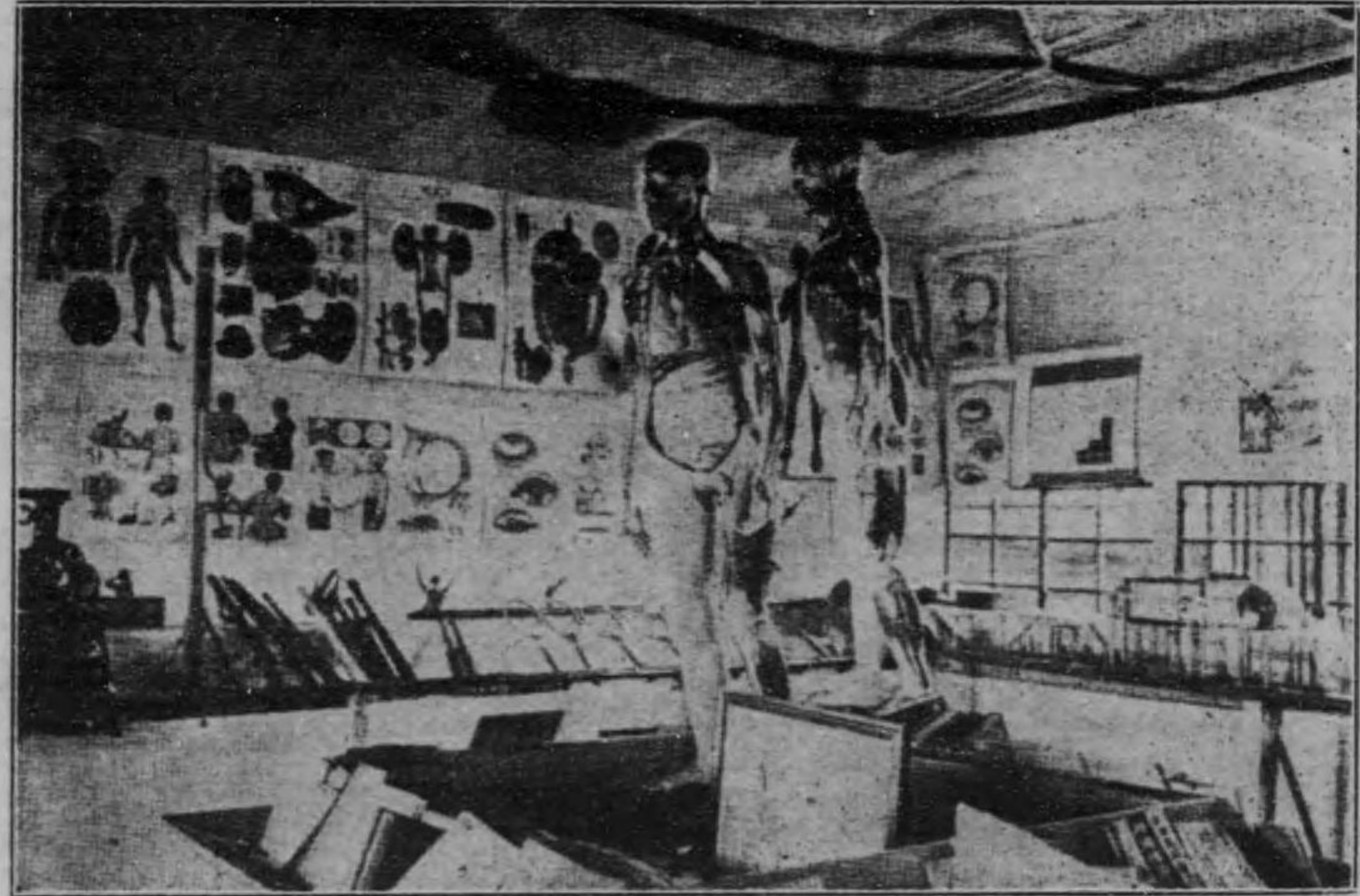
蜀  
都

乙卯七月

字





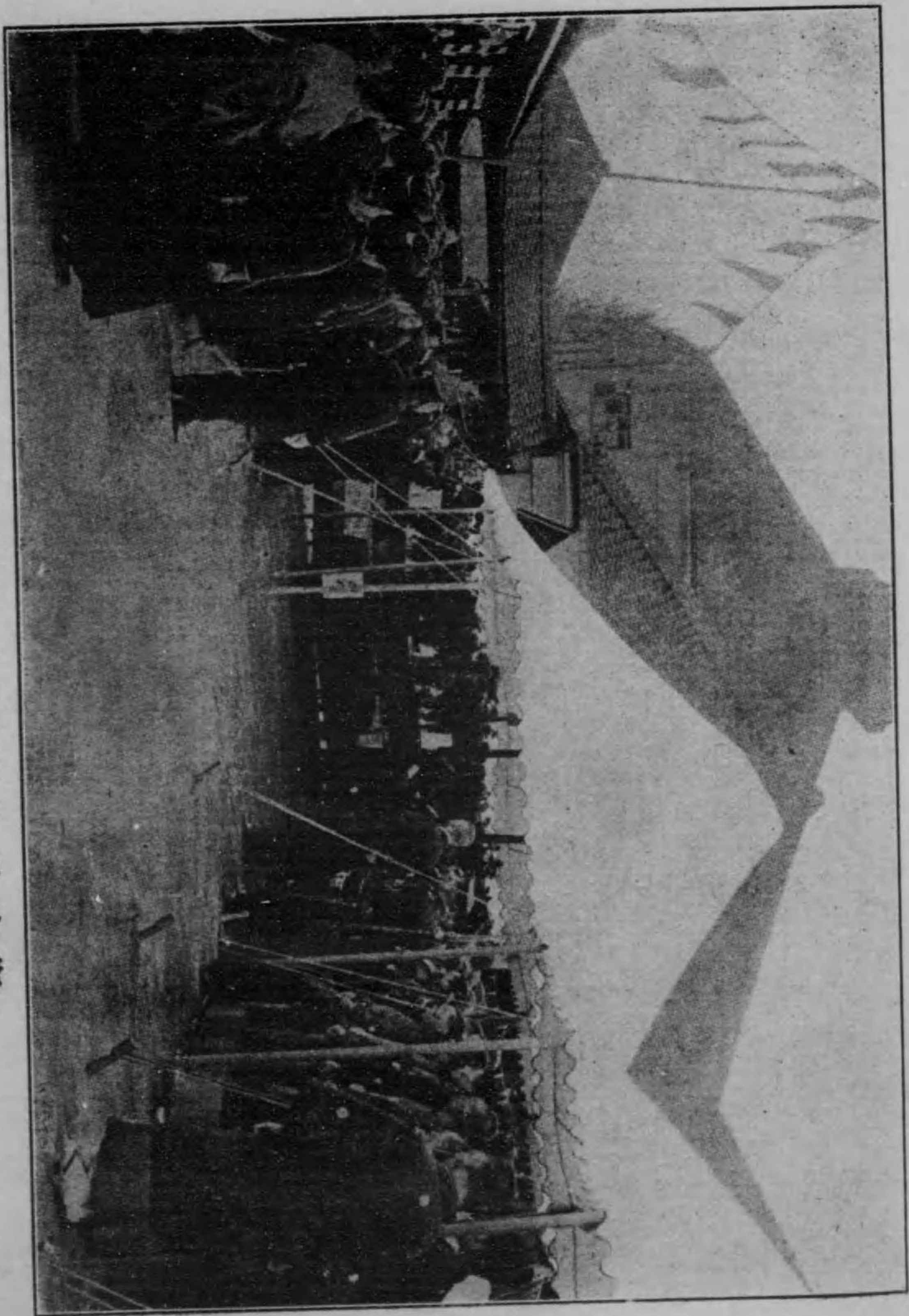


部一の生衛般一内場會



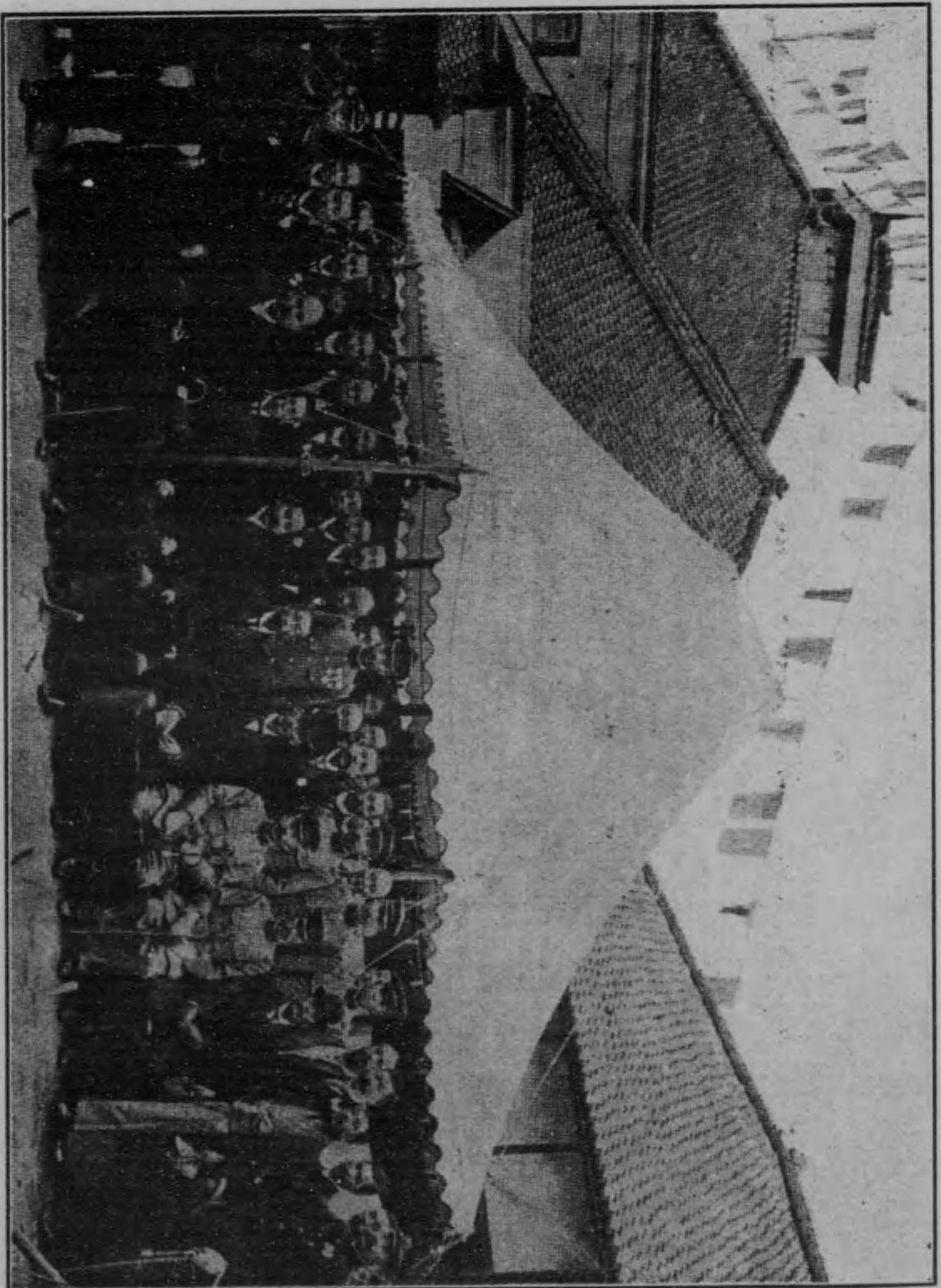
部一の生衛校學内場會





衛生展覽會閉會式舉行之圖





員役會本及賓來景光の日當行舉式會開會覽展生衛



## 自序

大正二年秋九月連山の紅葉は、國民至誠の赤心を染め、馥郁たる菊花は、我が皇室の繁榮を奉祝するかの様に咲き誇り居た時の事である、私立山梨縣衛生會は、甲府市工町舊琢美小學校全部を充用して、衛生展覽會を開催せられた、當時余は前田會頭の下にありて、諸般の事務を分掌し、東奔西走して居たのであるが、同會の餘興として、夜間衛生演劇を開催し、公衆の觀覽に供せば、展覽會と相俟つて其の効果蓋し尠少にあらざるべしとの考を起し、所感を幹部に協議した所、幸容るゝ所となつた、然し其の時は既に開會數日前の事であつた、加之當時余には、どういふ風に演劇の脚本を作らんか、どの腹案もなかつたのである、然るに此の事が端なくも新聞紙によりて廣く發表せ



らるゝに至つた。

展覽會開會の期日は容赦なく切迫する、開催準備に關する余の責務は頗る多端であつた、然も此の間に於て、衛生演劇の脚本を作り、且つ之れを興業せねば余の責任を完ふする事が出来ぬ、其の責任を完ふせんが爲め、四隣人定まりて萬籟なきの頃、燈を剪り筆を呵し漸く展覽會開會の前日に至つて稿成り、新舊兩派の俳優合同の一座をして、市内の劇場巴座に登場せしめ、會期中幸ひ非常の好評を得つゝ、興業したのが、即ちこれである。

其の後稿本は篋底に藏し、蠹魚の蝕するに任して置た所、畏友早川芙蓉君の勧めにより、今回出版することにしたのであるが、

余は素より文學者でない、況んや忽々の筆に成るもの、殊に普通小説の如く、巧に粉飾の詞を用ひて、濫りに思想を行ふの便を有せない、之れ、行文に難澁ある所以である、讀者幸に諒とせられよ。

若し夫れ此の書により衛生上裨益する所あらば、著者望外の幸榮である。

大正四年七月蠹魚の蝕する蒼蠅を雨窓に追ひつゝ

著者 遠藤堯山識



題 言

□天壽の貴きを知つて、而も衛生を重んぜざるは、富を欲して、働かざると同じき矛盾である。神佛に健康長命を祈請するやうに、各自が衛生に熱心なる信仰を有するに至れば、健康は常に保たるべし。

□萬人健康長命を欲して、却つて自ら健康長命を破壊しつゝあるは、衛生の道を知らざるなり。

□衛生思想の遍れからざるは、これを教ゆるの道に拙なきなり。一朝其衛生法を會得すれば、何人も即時に之を實行するに躊躇せざるべし。

□嵯山遠藤君の衛生小説「命」は、衛生法をむづかしく説かず、通俗に、興味を加へたる小説に脚色し、讀んで自から生の貴きを知り、衛生の行ふに易きを知り、不衛生の害毒を恐るゝ、好個の教訓書なり。

□予は此篇の公刊を聞き、一人にても多く不健康より救ひ、健全なる國民を國家に奇與せんとする微衷より出づるものなり。

早 川 芙 蓉

衛生小説 目次

一 觀光團……………一

二 天人臺……………七

三 寶來温泉……………三〇

四 痴態の走馬燈……………三七

五 矯正策……………四三

六 興廢の分岐……………六〇

七 一憂一喜……………六七

八 鬼の縁談……………七五

九 鬼の家庭……………一〇九



|    |         |       |    |
|----|---------|-------|----|
| 十  | 苦學      | ..... | 二二 |
| 十一 | 奇遇      | ..... | 二六 |
| 十二 | 積善の家有余慶 | ..... | 二五 |
| 十三 | 因果應報    | ..... | 二八 |
| 十四 | 悔恨      | ..... | 二〇 |
| 十五 | 祭禮      | ..... | 二二 |

## 附 録

|           |       |    |
|-----------|-------|----|
| 衛生と公共心    | ..... | 一  |
| 地方病に就いて   | ..... | 二七 |
| トラホームに就いて | ..... | 四六 |

|        |       |    |
|--------|-------|----|
| 皮膚の攝生  | ..... | 八六 |
| 創傷に就いて | ..... | 九六 |

## 鑛泉一覽表

|        |       |    |
|--------|-------|----|
| 西山梨郡ノ部 | ..... | 一  |
| 東山梨郡ノ部 | ..... | 五  |
| 東八代郡ノ部 | ..... | 一〇 |
| 西八代郡ノ部 | ..... | 一一 |
| 南巨摩郡ノ部 | ..... | 一三 |
| 中巨摩郡ノ部 | ..... | 一五 |
| 北巨摩郡ノ部 | ..... | 一七 |



南都留郡ノ部 ..... 10  
 北都留郡ノ部 ..... 11

目次終

小衛生命

遠藤堯山編

一 觀光團

日露戦役の凱旋を迎へて以來、幾回となく用に立てられたと、  
 覺しい紫地に白く歓迎の二字を染め抜いた小旗を銘々  
 に懸した數十人の一團が、歩廊に簇つて居る。

馳せ一發の烟火が、山八幡の中天に黄煙の柳條を靡びかせ  
 ると、今まで喧々と話し合ふて居た歓迎有志は、今這入つて







来た汽車の方へ足を向けた。同時に烟火は連続して打翠られる。其中に汽車は停車した。驛夫が『甲府』『甲府五分間停車』と呼で通る後から客車の扉はバタ／＼と開かれて、一様に紅葉形の徽章を胸に挿した三百余名の一團が、ドヤ／＼と歩廊に吐き出された。團長と見えて、桃色造花の徽章を着けた一紳士は歓迎有志に挨拶をなし、團員に一條の注意を與へ、若沼村助役村上高の案内にて、改札口へ進むと、歓迎有志の萬歳の聲は停車場構内に漲つた。

團長の紳士は、停車場前に團員の勢揃ひをなし、さて改めて



歡迎の有志に向つて一場の挨拶を述べた。

團長 此度私が募集して参りました此の團體は物見遊山の  
閑人ではありません。一年中汗を流して働き續けて居  
る貴い職工許であります。是等の職工諸君は、一年三百  
六十五日殆ど朝から晩まで致々營々として其職業に刻  
苦の油を注ぎ、勵精の功を積んで、國家の資本を作りつゝ  
ある尊い國寶であります。併しながら若し此の國寶た  
る勞働者の中に、恐るべき肺病や梅毒などの病氣が勢力  
を逞うするやうな事がありますと、それこそ國家は活動  
の中心を喪つて、其の損害は計るべからざるものであり



ます。そこで私は轉ばぬ先の杖とやらで、或る篤志なる富豪の寄附金を以て、此の職工團の慰安旅行を企て病氣を未然に防がうとするのであります。最初此の擧を企てたに就て、其の旅行先を行れにしやうかと、選擇に心を苦しめました。が、近頃新に開けた寶來温泉に決定したのは、其の地が最も衛生に適し、温泉の効力も勝れて居るからであります。一日二日の湯治も、團員たる職工諸君の健康を増進する上に多大の効果を見るだらうと私は信じます。さて只今此の地に參つて見ますと、當方から種々御世話をお願ひ申さねばならぬのに、却つて土地の

有志諸君から斯やうに御熱心に御叮嚀なる歓迎を蒙り、誠に感謝に堪へぬ次第であります。

此の團長紳士は、東京市に於ける有力なる東洋新聞社長國野基といふ人物である。

團長の挨拶が終ると、歓迎有志を代表して村上助役は進み出で

助役 御鄭重なる御挨拶で痛み入ります、さう伺ひましては、尙以て御歡待致さねば相成りません。若沼村長は、アレ彼方に見えます、富士見峠の中腹に、白い幕の張つてある處で、御待受け致して居ります。



團長 ア、成程。彼の見晴の好ささうな山ですか。

助役 さやうです。彼處は天人臺と申して、眺望絶佳の場所  
で、村長は特に彼處を選んで、御一行を御迎へする準備を  
致して居ります。向うでさぞ待兼て居りませう、御支度  
が宜しければこれから御案内に立ちませう。

團長 それは恐縮の至りです。それでは徐々出發致しませ  
う。

村上助役は歓迎有志の列を整へ、歓迎旗を先立て、富士見  
峠を指して出發した、煙火は間斷なく晴れたる空に轟き渡  
るのである。

## 二 天人臺

寶來温泉の所在地たる若沼村は、甲府停車場を距る約二里  
あまりの山腹に沿うた小都會である。富士見峠は恰も其  
の中間に位し、風光絶佳を以て夙に詩人の吟詠に入り、遊覽  
の客四時に絶えぬ所である。

其の景色は狩野の妙筆に成れる三保の松原を緩い傾斜に  
立掛たやうで自然の畫境である。

此の峠は約十丁計羊腸たる坂路であるが、山の地表一帯は、  
花崗石が風壞して白砂と變じ、雪を踏んで行く思がある。

群立つ老松は、鷹の羽を擴げたやうに、何れも千歳の翠を凝



して鬱蒼として居る。

殊に峠の中央には、天工鬼作に成れる天人臺と呼ばれる平坦の地が在つて、奇岩怪石が諸所に重疊として峙ち、中央には白砂に玉を轉したやうな清流が潺湲として老松の間を縫ひ來りて、松露と名付くる小さな池が鏡をなして居る。團體が今し停車場を離れて、廿四五丁進んだ頃、天人台でも頻りに煙火を打揚げて、團體を歓迎して居るので、紅塵萬丈の都會にのみ辛い生活をして居た職工は、秋色正さに酣なる野趣に心を奪はれ、其の風光を賞めながら狂喜しつゝ、天人台の煙火に足並は一層速やくなつた。

村長若沼秀雄は、朝來天人台へ來て、十數人の村民と共に天幕を張つたり、卓子を並べなどして、準備全く了り、茶より麥湯の方が衛生的と云ふので、大釜を据ゑて麥湯を沸かし、土地名産の柿栗、葡萄などの珍菓を整へ、團員の近づいたのを見て、専ら奔走して居ると、間もなく團員は元氣克く到着した。

職工等は一望千里の秋色と其の風光とを撞にすることが出來たので、其の喜びは殆ど頂天に達し、殊に松露の池には老松が倒まに千古の風姿をひたし、遠く富嶽の影さへ浮べて居るので、何人も恍惚として、其の風光に酔はせられぬは



無<sub>レ</sub>。

甲 諸君見給へ。此の清水は何んど云ふ美しさだらう。君等は口を開けば水道の水で産湯を使つたと云うて威張るが、此自然に接すると、矢張り田舎の人が浦山しいネ。時に村長、此の附近には傳染病はありますまいネ。

村長 はい此の清水は二十間計り上の大松の根から滾々として湧くので、少しも人煙に汚れた場所を通つては來ません。御覽なさい。松笠や松葉が落ちて、池を汚すことはあります。一面が此の白砂でありますから、全く清潔で、衛生検査所でも、時々御検査がありますが、水道の水より寧ろ細菌も少なく、總ての點が良いと謂はれて居ります。

乙 成程さうでせう。傳染病が無いとすれば、先づ安心々々どれ、一杯掬んで見ませう。ヤア、これはまるで松露の味がしますネ。

丙 君等は、どうも無風流で困るナア。其の松影や富士の姿を滅茶くにしては臺なしだ。静にし給へ。

丁 其の通りだ。飲むのも惜しいやうな泉だ。此の邊の人達は實に幸福だなア。僕、時に一首あり。聞き給へ。  
「松影や富士の姿をそのまゝに、掬ぶ清水の心地よきかな」



どうぢや。

戊　へん。味なことをやらかすな。僕も一つ負けずにやらう。しかし尋常一様の腰折とは少し譯が違うから謹んで拜聴し給へ。

己　効能書の大きいものに碌なものはない。君の歌もそんなものだらう。

戊　兎に角聞いて驚くな。

「松影や富士の姿を丸呑にしたれど腹は左程脹れずはど  
うだ。」

一同　アハく。こんなことだらうと思つて居た。

若沼村長は臆て團員に向ひ、「これから眼界の届く丈けの地理に就いて少々説明しませう。」

國野團長「諸君、これから村長君が重なる個所に就いて説明をしてくださるさうじゃ。百聞は一見に如かずと云ふから能く聞き給へ。」

庚　ナニ團長が今百文は一錢に如かずと云ふたが、一錢より百文の方が多からう。

辛　さうじゃアない。學問は一錢に如かずとて、學問計りあつても『ケチンポー』の間拔野郎では、一錢程の價値もないと云ふことだ。



庚 ナル程貴様は本屋の職工丈けあつてなか／＼むづかしいことを知つて居るナア。

辛 なんでも知らんことがあつたら己れの處へ聞にこい。

庚 巫戯るな手前の處へ聞きに行く位なら横丁の易者の所へ行カア。

辛 一體易者チユウものは、そんなに學者か。

庚 學者かつて、貴様は知らんのか。隣寸箱の觀兵式のやうに四角の字ばかり並んで居る本を、火の玉を喰う／＼ど、スラ／＼読んで居らア。

申 手前の方がよつ程馬鹿ジャアネエか。火の玉を喰ふ

ンジャネエヤ。子のたまはくと云ふのだが、若し分らん字があつたらどうする。

庚 其の時には直ぐ易を立て、判断すらア。

申 馬鹿を云ふな。

團長 何を其所で口喧嘩などして居るのです。

庚 喧嘩ジャアネエので、チヨツと議論をした計りです。

團長 議論も餘り激に涉ると喧嘩だが。マア村長君の説明を聞き給へ。

一同 ハイ

村長 皆さんが先刻下車せられた甲府停車場は、直ぐ眼下に



瀛罐車が黒煙を吐いて居る所です。其の南の方二丁計りの所に高く聳えて居る建物は高橋醫學士が經營せられて居る私立山梨病院で、其の三丁計り東の方に見える洋館の高層は、村松醫學士經營の甲府病院です。それから舞鶴城の南にある大きな建物は、山梨縣廳です。

甲 村長君縣廳の西の方にある建物はなんですか。

村長 あれですか。あれは近頃新築せられた山梨縣衛生検査所で、其所には縣で任命した薬剤師の技手が数名居て、賣藥から氷飲料水着食料、食器、器具又甘味質杯を始めとして、温泉、鑛泉は勿論衛生上に關する化學的の分析試験

杯をする所です。

乙 そんな色々な検査は縣のもの計りするのですか。

村長 イ、エ、誰が願つても極く僅かの検査料で、それはく丁寧親切に検査して呉れます。私の村でも時々種々の検査をして貰つて居ますが、それがため衛生上大層な利益を得て居ります。

丙 村長君縣廳の南の方に今普請をして居る所は何んです。素的に大きい工事の様ですナ。

村長 あれですか。あれは今度山梨縣で數十萬圓の大金を投じて有りど有らゆる工風を凝して建築する山梨縣病



院です。未だ私も精しい事は知りませぬが何んでも日本有名の文明的新工事ださうです。

其南の方の角にある建物が、現在の縣病院ですが、今の工事が落成次第此所に移轉するのです。

丁 成程さうですか、夫れは何より結構ですナア。實に山梨縣の人は幸福の至りだ。かう云ふ完全の病院が出来ると、なんて、大概の病人は直ぐ全治つて仕舞うだらう。

村長 病氣の性質に依りては、さう直ぐ全治ると云ふ譯には行きますまいが、兎に角完全の病院が澤山あれば、それだけ仕合せと云ふものです。

殊に山梨縣は幸ひ醫師の仲間が非常に圓滿なものですから、郡醫師會とか縣醫師會とか云ふやうのものも、日本中で最も先きに組織せられて、醫學上の研究と來ては、どんな山の中の醫師でも、それは、驚くばかり熱心なものですから、先年内務省からも表賞せられて、澤山御賞の金まで頂戴した様な譯です。

戊 オイ。甲乙丙丁君どうジャ。山梨縣へ來たついでだと言つては、少し失敬だが、東京へ歸る折に、一同申合せて、醫師の診察を受けやうジャアネエか。

甲 つまらん事を言ふな。こんなにびん／＼して居るの



に、醫師に診察して貰うなんて、そんな道樂のことが出来るカイ。

戊　こりヤー困つたものだ。大隈さんは百二十五歳まで生きると言つていらつしやるが、僕等は少し慾が深いかも知れぬが、實は今少し長生きして見たいネ。せめて百二十五歳位の時には孫でも連れて、飛行機で世界漫遊がして見たいもんだ。それには健康の中に不斷診察を受けて、病まぬ工風をするのが第一だらう。

村長　ハア。なか／＼面白い御話です。何んとしても醫師に時々診察して貰う事は必要です。殊に山梨縣の醫

師なら何處で診察して頂いても、不親切の者はそれこそ薬にしたくもありません。それに甚だ失禮の申分ですが、若し御病氣に罹つた折御持合の無い時などはどの町村役場や警察でも、濟生會の無料診療券を呉れますから、それを持参すれば、直ぐ診療て呉れます。最もこれは日本中何處でも同じださうです。

乙　それは能い事を聞いた。僕等の城廓附近は大夏高樓ばかりと言ひたいが、實は電燈の光さへ意地悪く薄暗い貧民窟で、九尺二間を金殿玉樓として、平和な家庭は此所に結ばれて居るが、扱て家庭の中で、一人でも病氣に呪は



れたものなら。悲惨の秋風は遠慮なく家庭を吹き荒して忽ち生活難を訴へると云ふやうの始末だから、若しこんな場合の時は、無料診療券を貰つて、直様診察していただくやうに吹聴してやりませう。

村長 それは辱けない。どうか先帝陛下が無告の窮民にして、醫師の治療を受くことが出来ず。それがため壽命を全うすることが出来ないやうのものがあつては、不憫であると云ふ有難い御聖旨を以て、施薬救療の資として御手許金百五十萬圓を下し賜はつたのであるから、廣く世間へ吹聴して下さい。遠慮して無料診療券を貰

はずに病身を抱へてぐづぐづして居るのは却て不忠になりませうから。

甲 イヤどうも、村長君から只今の御話を承はり涙がこぼれる程有難く感じました。

村長 話が段々横道へ這入つて仕舞ひましたが、是れから又地理に付いてもつと説明致しませう。

縣立病院の傍に見える一棟は、細菌検査所で、傳染病の細菌類は、誰が願つても無料で検査して呉れる所です。

近頃は菌保有者どかいつて、健康の人でも、赤痢や腸窒扶斯杯の細菌が体内に宿つて居て、大便と共に出るさうで



すから何人でも時々検査して貰ひ、若し病菌があつた時は直ぐ消毒を行ふ必要があると言ふことです。

丙 村長君、ズット南の方に見える大きな川は何と云ふのですか。

村長 あれですか、あれは笛吹川で、西の方を流れて居るのが釜無川です。あの兩川が落合どころ附近から上の方一帯には、日本住血吸虫病と云ふ一息には言憎い長い名の病氣があつて、之は幼虫が人の皮膚から血管の中へ這入り、それから肝臓や脾臓の肥大症を起す悪い病氣で、山梨縣では之れを地方病と言つて居りますが、縣醫師會の内

に、地方病研究部と云ふが特設せられて居て、醫科大學からも、毎年醫學士が來て、盛に種々の研究をせられますが、何んでも此の病氣のある地方では、小供に水泳などをさせるど、直ぐ幼虫に喰ひ入られるとか申しまして、警察からも時々注意があります。

團長 さう後の方で、がや／＼騒いでは、大切の御話が一同に分らんから、少し静かにし給へ、時に村長君、山梨縣には澤山温泉や鑛泉があるさうですが、それを少し話して呉れ給へ。

村長 ハイ、承知しました。此の甲州平の諸川を一呑にして



居る富士川を舟で、波高島まで乗り下し、東の岸を約十五六丁斗りも上つた所に、有名な下部の温泉があります。此の温泉はどんな病氣にも効能がありますが、就中創傷や骨折には、耆婆扁鵲と雖も、到底及ばない程の効能があります。殊に近頃分析の結果に依ると、ラヂウム・エマナチオンを含んで居るさうです。

團長 村長君、信玄公の隠し湯と言つて名高ひのは、其所のことでですか。

村長 左様です。それに下部は氣候はよし、山紫水明の所ではあるし、源泉館大森館大市館杯と云ふ立派の浴場があ

つて、萬端の設備も行届いて居ますから、四季近國からの浴客は絶えたことはいりません。それから富士川の西で、早川の上流に、西山の湯と申して、全國に名の響いた名湯があります。数千の浴客が絶えませぬ。又近頃北巨摩郡の増富村には、千マツ以上のラヂウム・エマナチオンを含んで居る東洋第一の鑛泉が、數箇所発見せられたので、大層な評判です。

團長 僕の社の職工が先年誤つて手を折つた時、下部の湯へ来て湯治をした所、忽ち全癒して歸つたが、西山の湯も、又東京の友人が澤山湯治にまゐつたが、効能と言ひ設備と



言ひ申分ないど、聞て居ました。

村長 　まだ此の外、西山梨郡の湯村には、數個所の温泉や冷泉があつて、これもなか／＼盛大のものであります。又青木の湯、川浦の湯、鹽山鑛泉、黒平鑛泉、積翠寺の湯、さがしをの湯、御座石の湯等は、著名のものであります。其の他にも到る所に名湯が澤山あります。これを一々説明するは、容易の事ではありませぬから、幸ひ此所に印刷した山梨縣鑛泉一覽表を持參致しましたから、これを御一同に一部づゝ差上げる事に致します。

但し斷つて置きますが、此の分析表はづつと以前に試験

したのと、近頃したのと、又細かく分析したのと、大體に止めたのとありますから、中には名湯でも効能書の少ししかないものもあります。其の御心算で御覽を願ひます。一同、これはどうも有難い、村長君感謝します。此の分析表は、少しばかりの金銭で手に入れることは、逆も出来ないものだ。

團長 　村長君の興味ある説明で、種々参考となつて、誠に幸ひでした。もう彼此四時ジャ。ぼつ／＼出發して寶來温泉で旅装を解くことにしませう。

村長 　『然らば御案内致しませう』と、歡迎旗を先頭に再び同



所を出發した。

### 三 寶來溫泉

巍峨たる數層の大建築は南に向つて緩い傾斜をして居る寶來ヶ岳の突出した個所に文明の工夫を誇り數千の電燈は夕陽未だ全たく光を收めざるに早やくも樓の内外に夜の光景を映じ出し麓の斷崖を嚙んで奔る蘆笛川の清流は、夕陽に燃ゆる紅葉に色はえては其の餘を亂して居つたが、之れもほんの束の間で今は全たく夜の幕に覆はれた。三百餘名の團員は今や已に夕餉を終はり廣い浴場でラヂエームの効能を説いて居るものもあれば夜の町を散歩して、

藝妓や酌婦の痴態に羨望の目を注いで居る者もある。

團長國野基は今しも四五の團員を相手に浴場の欄に凭りながら土地の風光に就いて感賞して居る處へ、若沼村長が訪うて來ので座に請じながら、

團長 よくお出で下さいました。イヤ此度は何から何まで、痒い所へ手の届いたやうな御懇切の御歡待にあづかり、團員一同大満足で、實に感謝に堪へません。此の土地の風光の美しいのは想像以上で、私も日本内地は到る所探勝を試み足跡天下に遍く自分でも誇つて居るやうな次第ですが、この地に勝る景色は、さう澤山は無いやうに思は



れます。頼山陽の御紹介で天下に奇景の名を知られたかの耶馬溪も好いが、此處は其の耶馬溪の好い所と御岳の覺圓峯附近の好い處を選抜いて上手な庭師に思ひ通りに造り上げさせたやうですな。這な名勝が今まで何して隠れていたでせう。それに此の地はかく日本有數な景色を控えながら世界有數のラヂウム温泉を有して居るのですから、鬼に鐵棒とはこの事です。團員一同も着いてから一浴したばかりで、一時に健康を恢復したと、よろこんで居ます。

村長　これは御過賞で恐入ります。仰の通り一度此の地へ

お出の方は誰何も天下第一の景色だどお褒をいたゞきますが、これが十年前までは文人墨客が時折杖を曳く位の僻地で宿屋とても碌なもの無く、村の者も大概農業を営み或は炭を焼いて貧しい生活を立て居りましたが、其の寒村が此のやうに開たのも、全く天恵のラヂウム温泉のお蔭であります。土地は御覽の如く開け、村人の富も昔に幾倍する有様ですが、只一つ昔より劣つたものがあります。これは都會の華美な風が急に侵入したので、純朴な人情風俗は日に月に失はれて、只目前の淫樂に酔されるといふ情ない有様です。私今になつて考へる



ど、私は村民に幸福を與へたのだか不幸を與へたのか辨別べんべつのつかない結果をひそかに嘆息して居るのです。

國野團長は聞答めて、

國野 それはまたどういふ仔細ですか。

村長は一膝進めて、

村長 實はこの土地一帯は先祖傳來私のものでありましたが丁度今から九年前、村の者が生活に困ると云ふので、懇こんさせた處圖らずもラヂューム・エマナチオンを澤山含んだ温泉が湧出しましたので、大阪の豪商が拾萬圓で買取たいと申込みましたが、村の者は八九分皆私の子分であ

る所から、これ等の者を救助する目的で、此の温泉を村へ寄附し、村費五萬圓を投じて此の浴場を建築した處、御覽の通り絶えず千人内外の浴客が居ると云ふ盛況を呈したため、四年許りの間に村債を全部償却して仕舞ひ、今では浴場の利益分配だけで遊んで居て生活が出来、猶餘りある様になつたので、自然に堅實な思想が消磨して、漸やく華美遊惰の風が増長してまゐり、昔は至極質朴で、村の者等は互に食を分け合つて喰ふと云ふやうな誠にハヤ愛すべき性質でありましたのが、只今ではそんな人情は藥くすりにしたくもないやうになつて仕舞ひ、それに咽喉元過



ぐれば暑さを忘れる譬昔の貧困を顧みるものどては一人もなく今日の幸福は私が寄附した温泉の御蔭だと思ふものすらなく唯天からでも降つて来た位に思つて無暗に金銭を浪費ひ、最初は浴客を目的として開業した料理屋や飲食店は、今は土地の父兄を始め、青年迄が常に出入して、藝妓や酌婦に戯むれ、産を破り、信用を失ひ、終には身の健康までも其の犠牲に供して顧みぬ情ない有様になりました。小人罪無し玉を抱いて罪ありとは好く申したもので、今日は村人の富が、却つて不幸を生みました。誠にハヤ残念であります。

村長は撫然として、四隣より湧き起る絃歌の聲に眉を顰めて語るのである。

#### 四 痴態の走馬燈

丁度此の座敷と中庭を隔て、相對つて居る二階では、土地の者らしい五十年輩の男が、他愛もなく馬鹿騒ぎをして居る。障子が開け放されて居るので、其の狂態が手に取るやうに見られる。先方では、東京から来た團體の客に豪遊を誇るかのやうに、態ど濁聲高く卑猥な謠を歌ひ、酌婦や藝妓に戯れからかひなどして、これ見よがしの淺ましい痴態の限りを演じて居る。





甲 オイ、でこ助、もう一騒ぎ打騒がネエか。東京の客さ面  
當に、ウンとやらかせ。

乙 さうだども、東京に負けエ景氣を見せ付けネエジャア  
土地の者の面が立たネエぞ。

客の兩人が附景氣にハシヤギ出すと、藝妓は三味線をガヤ  
／＼鳴し、酌婦は手拍子を拍つ。其の騒々しさは天井も振  
けるばかりである。

此の騒ぎの中に、又一方の中二階に上つた兩人の客は、二十  
四五の青年同志、これも二三人の藝妓を連れて、がや／＼と  
上つて來たが障子を明けて、向ふ二階を見るや、周章て首を



引込め、

甲 オイ、不可エ〜お前の阿爺と俺の阿爺と、生憎兩人連  
で、先に來て居らア。

一人も一寸彼方を見やつたが、

乙 ナニ構うもんか、阿爺の真似をするに不思議はネエや。  
これがホントの親孝行といふものだ。サア此方でも負  
ずに騒げ。

酒が云はせる勝手な理屈に、一人も直ぐ賛成して、

甲 さうだ〜、阿爺に負けチャア、若え者の估券が下らア、  
さアやらかせ〜。



此の座敷でも、又負けずに騒ぎ出す。中に挟まつた國野の座敷は、絃歌の總攻撃に遭たやうだ。耳も聳するばかりである。

此の有様を、苦々しげに見やつた村長は、面目なげに國野に向ひ、

村長 御覽の通りの爲體。何どもハヤ赤面の至りです。

國野も、村長の心を察しやり、

國野 御嘆息も實に御道理です。此の上は貴下の責任として、どうかこれが矯正の策をお立なさらねばなりません。私も何か考へて、矯風の一策を貴下に献じませう。

村長 それは何より有難いことで、何卒此の一村を墮落の淵から救ひ出して下さう。

一村の前途を案じ、眞面目な矯風策を語り合つて居る。一方には、阿爺と悴の二組は、二方に陣取りて盛に俗謠戦を闘はして居る。

道樂息子は塵芥取人夫、貯める傍から運び出す。

ト阿爺の方で歌へば、

貯めてくれたる其の財産を、使はぬ悴は親不幸。

互に歌ひ闘つたが、遂には白兵戦となつて、阿爺と悴で遠方から罵り合ふ大亂戦となつた。



甲 豚兵衛さん實に悴共には呆れ返つたものだ。あの様子では私が瞑目つたら身代は半歳ども保つことは出来ませう。

乙 イヤハヤ御同様。悴の放埒には愛想が盡きましたワ  
イ。

流石酒色に現を抜かして居る親父も現在悴共の狂態には興醒めて狐鼠く、と歸り去つた。

甲 萬歳く親父を撃退してやつた。さアこれから勝軍の祝杯を擧げよう。

乙 矢張年齢には敵はないと見えて旗を巻いて退却は愉快

だナ。さア藝妓共これから改めて飲み直しだ。  
道樂息子の馬鹿騒ぎは何時果つべしとも見えや。夜が更けても絃歌は止まず。團隊の一行は爲に安眠を妨げられて何時までも目を合されなかつた。

### 五 矯正策

村長若沼秀雄は團長國野基より保健組合を組織し酌婦藝妓の検診を行ひ矯風會を起して風紀の紊亂を矯め其の外水道を設けて傳染病の流行を防ぐ事業に就いて種々の意見聞きしより村民大會を開くべく助役村上高收入役金倉納平書記筆野豆太郎等に意を傳へ其の準備をなさしめ



た所、村民は續々集つて來た。

村長 諸君、本日皆さんの御集會を需めましたのは、前回の大會に於て御相談したごとく、同様でありますが、前回は何れども決定せず散會に至りましたため、再び御寄りを煩はした次第です。殊に先般近藤警察署長殿よりも、保健組合の組織、水道の布設等は至極適切の問題であるから、是非猶一應相談を重ね實行して呉れる様にとの御注意もありましたから、御再考を願ふためでございます。

此の時、署長近藤紫郎、郡長田宮正晴の兩人公用にて、村役場表を通行せんとするとき、折能く駐在巡査山川清造、巡回の

途次、村役場へ立寄り出で來りしに、出會したので。

巡査 署長殿、郡長殿お揃ひで何處へ御出張で御座ります。

郡長 オ、山川巡査君ですか。毎日の御巡回御苦勞じやのう。イヤ全く警察官の受くる俸給は少ないが、人民保護の爲に、炎天寒夜、風雪水火の勞も厭はず、日夜繁劇の職務に當らるゝは誠に感謝の至りですナ。

巡査 お賞めに預り、恐縮の至りであります。

署長 僕は郡長君とこれから急の用向で、他へ出張する途上だが、役場が大分賑やかじやナ。

巡査 兼て御報告申して置きました村風改良のことで、本日



は大會を開いて居る所です。時間の餘裕がつかましたら、一寸御立寄を願ひます。

署長 ア、さうく。先日村長へは其の事に就いて書面を出して置いた。郡長君も御承知の通り此所の村政は實來溫泉開業以來、表面丈けは仲々立派になりましたが、其の内幕は實に目も當てられない程紊亂して居るから是非改良したいと、先般大會を開いた處今成鬼六と云ふ金持が反對した爲め、其の儘になつて仕舞たので甚だ遺憾に思つて居た所でした、未だ一時間位は立寄つて居ても良からうと思ひますがどうでせうか。

郡長 イヤ、其の事に就いては、僕も先頃耳にしたので實は警察より僕の方が進んで獎勵しなければならぬ筈です。幸ひですから村民に話して行く事にしませう。

巡查 それは甚だ良い都合でした。どうぞこちらへ。

と村役場へ案内する。村長は村民一同に對して丁度再會を召集した理由を話して居る處であつたが、山川巡查の案内で、近藤署長、田宮郡長が來場せられたから、椅子を離れ、村長 イヤ、これは丁度良い處へ御出張下され誠に感謝致します。先日御書面を戴きました村の風儀改良に付き再び會議を開いた所です。署長殿には事情は詳細御承知



の筈でありますから幸ひ貴方より村の者に一應のお話を願ひます。

署長 今日では都合があつて緩々とお話をする事は時間が許さぬから極く簡短にお話して置ませう。諸君此の村は十年前は模範村として其の筋から幾回もなく表彰せられた立派な歴史を有つて居たに拘らず、寶來温泉が出来てからは足輕が一足飛に大名にでも成つたと云ふ風に遽に増長を始め、之れが爲めに村の風儀が非常に亂れ、近頃は其の風が隣村から隣村へと傳染し、若い男や娘を持つて居る親達は非常に頭を悩まして居るのじゃ。現に諸

君も知つての通り、本年の徴兵検査の際、此の村の壯丁十三人は悉く梅毒に罹つて居た。尤も年を取つた連中にも大分ふが／＼が見えるやうじゃが、徴兵検査官も此の不成績には大いに驚いて、日本にこんな所は外にはないと言はれた。これは獨り検査官許りではない。かういふ僕も此所に居らるゝ田宮郡長君も驚かれたのじゃ。これは畢竟村の者が、誰れ彼れどなく藝妓や酌婦に溺れて、犬や猫のやうな下らん眞似をするからじゃ。此の儘放つて置いて見給へ、梅毒が子や孫に遺傳して、青瓢箪へ魔がさした様なぶら／＼病人許りになつて仕舞ひ、遂に



は朽ちた大木が自然に倒れる様にぐにやぐと家が潰れ、村が疲弊して仕舞ひ、御先祖様へは不孝君に對しては不忠になるのジャから茶屋遊びなどは斷じて止めて互に相戒め勤儉産を治めて、昔日の様な模範を示さなければ相濟まぬと思ふ。

署長はズット四方を見廻はし、梅毒にて鼻の落ちた親父を指さし、『其所に居る親父さん』

親爺 ハイ私のことと御座りますか。

署長 君のこと、君のこと。お前さんは、いつ頃からそんなになつたネ。

親爺 誠にヒヤア。面目ないでがす。近頃少し許り茶屋遊びをした處、遂々梅毒ちう奴に取り付かれ、こんな有様になつて仕舞ひやした。

署長 此の村にはかう云ふ人が近頃大分殖えて來た爲め、今では金持の御客が段々減つて來たのジャ。就いては村の者が心にちやんと錠を掛けて、女狂ひなどを止めると同時に、酌婦や藝妓の健康を保護する爲めに、營業者が規約を以て、保健組合を設け、毎月二三度位宛検査して、梅毒や肺病の患者は組合の費用で治療してやらなければ、如何に賤業婦でも可愛相ジャ。それから又村の青年など



に、大分ふがくの玉子が出来たやうじゃ。これも放つて置いては活動の中心國家の柱石と頼む青年の鼻の障子が飛んで皆夏座敷の様に開け放しになつて仕舞うのじゃ。又その次は簡易な水道を布くことじゃ。此の村の蘆笛川は平素水晶の様な良い水じゃが大雨が一日か二日も降ると直ぐ濁つて来る。所が此の村には完全の井戸が一つもないので、其の時は村中の者が泥水を呑んで居るのじゃ。人間の身體は全體水七分で保つて居るのじゃから、飲用水試験は實に大切のものじゃ。殊に河水が傳染病毒に汚された時は之れが爲に大流行を招き、

非常の大損害を來たすことになる。多分の費用も掛るまい。若し傳染病でも流行しやうものなら、第一年内に何萬と云ふ多數が集つて来る温泉場の浴客が來ないことになると、このじゃ、さうなると村内の米櫃が空になると同様じゃから、速かに工事を起すやうにして欲しい。是も皆御國の爲めじゃ。

村民甲 道理で雨の降つた時の飯は、兎角ジャリ／＼するところがあるが、濁り水でお米を洗ふからだんべい。

村民乙 假令米櫃は空になつても、金せえありやア、良えがいよくお客がねえとなりやア、自然錢が取れねえ。こり



やア困つたのう。芋兵衛どん。

此の時、郡長は携へ来た水筒を肩から外づし、

郡長 諸君、僕等は傳染病があるに不拘、平素不完全の井戸水や川水は危険じゃから、甲府水道の水を汲んで来たのじゃ。丁度昨日と一昨日の降りで、蘆笛川の水は幾分濁つたかも知れない。一つ此處で、比較して皆様に御覽に入れよう。若沼村長御面倒でも、蘆笛川の水を少し汲まして来て呉れ給へ。

村長 承知致しました。小使、その手桶に川の水を汲んで持つて来て呉れ。

小使は直に汲んで持参する。郡長二個のコップを卓子の上に置き、水筒の水を一つのコップへ移し、手桶の水を一つのコップへ汲み、燈火で透しながら、

郡長 諸君が常に清潔だと、誇つて居る蘆笛川の水は、左水道の水は右の方じゃが、何方が良いと思ひなされるか。

村民甲 コリヤ驚いた、ただ二日降た計りで、自慢の川水が丸で砂を入れて攪拌た様だ。

村民乙 水道の水は實に奇麗なもんだ。今まで蘆笛川の水は日本一と許り思つて居たのは、大間違だつた。

村民丙 已達は雨の降る度、鱒が砂もぐりの様に、こん水許り



呑んで居たのか驚いたナア。道理で誰れも彼れも皆土色をして居らア。早く村長さん水道を引て下さい。丁度十三年前此の寶來温泉が出来ない前であつた、赤痢病が村中に流行して村半分死んだことがあつたが、其の時は厄病神の祟りだと云て、御祭りをしたり又は御祈禱をしたり、御符水を頂ひたりしたが、病人が殖える計りで、少しも減らなんだが、矢張りそれは河水が悪かつたからだ。近藤署長 今諸君の云はるる通り、先年の大流行は河水と迷信に因つたと云ふことが、警察の記録にチャンと残つて居る次第ジャ、で、一日も早く水道を設け、諸君及び諸君の子

々孫々にまで健康なる大幸福を傳ふるようにしたいのジャ。

村民丁 仲々署長様はエライもんだ、何んでも知つて御座る。實に驚いたものだ。昔時のヒジリとか云ふ人が、健康は幸福を生むの母なりと云ふたさうだが、署長さんの云はるるのは、その處だ。

村民戊 頼兵衛さん。御前、昔時のヒジリと云ふ人がと云はしやつたが、そんな人が何處にあつた。さうして健康は幸福を生むつて健康では丸で男の様な名だが、それは女か。



村長 仲々、皆さんは面白いことを言はつしやる。「ヒジリ」  
と云ふのは聖人と申して支那の孔子さんや孟子さんの  
様なエライ人のことです。又健康と云ふのは男でも女  
でもない。身體がびん／＼する程、たつしやであれば、思  
ふ存分働く事が出来たり、學問の勉強もいくらでも出来、  
其の他思つた事が何事に依らず仕通すことが出来るし、  
見るものも聞くものも、皆面白く、實に愉快に目的を遂げ  
る事が出来るから、健康な身體程仕合を生み出す事が出  
來ると云ふ譯です。

村民已 成程、コリヤ村長様のおつしやる通り、身體あつての

物種畑あつての芋種、御客あつての商賣だ。いくら澤山  
金が有つても、青瓢箪の様な病人じゃ生きてる甲斐がね  
えと云ふものだ。

近藤署長 次に此の村の隔離病舎は、十三年前の赤痢病大流行  
の折設置したものだ、今は實に見る影もないやうに破  
損して居るので、これも近い内に改築して貰ひたい。第  
一病人の出た時に、あの儘では收容する事が出来ない。  
去りどて病人を其の儘に置けば家族の者に傳染する。  
病毒は次第に廣がつて、遂には村中の騒となる。

此の時、郡長時計を出し時間を見て



郡長 もう時間が来た。出掛ないと間に合ぬかも知れんネ。  
署長 成程、これは少々後れた。それでは早く出發すること  
にしよう。諸君もつと緩々話たい事があるが都合に依  
つて、之れで失敬する。ドウゾ御相談の上御實行を祈り  
ます。

郡長 若沼村長、それでは御暇致しますが、能く村民と御協議  
なさつて、可成早く實行する様に希望して置きます。

村長 誠に御注意の段深く感謝致します。

村民一同 ドウモ御苦勞様で御座りました。

## 六 興廢の分岐

郡長 署長及び山川巡査の三人が村役場を退出した跡の會  
場は忽ち騒然各自勝手に事を謀り合ふ。村長は之れを  
制しつゝ、

村長 扱諸君、只今署長並に郡長殿より種々御話のあつた事  
を能く御聞取りのことで存じますが、何れも至極必要な  
事許りで、殊に本村の興廢に關する大問題でありますか  
ら、一同に於かれても御異議はない事と信じますが、一應  
諸君の起立に問ひ、其の上可否を決しようと思存じます。  
ドウゾ御賛成の方は起立して下さい。

李兵衛 村長さんに御尋ねしやすが、起立に問ふとは全體ど



んな事をするのでござりやす。

村長 ハハアさうでしたか、賛成の御方は立つて下さいと云ふ事です。

李兵衛 ナンダ詰らない。そんな造作もない事なら聞かずとも能く知つて居たに。

村長 無論御異議は一人もなからうと思ひますが、念の爲め御賛成の方は立つて下さい。

村民はさう云はれても債鬼の前には意氣地なく、今成鬼六の態度にのみ心を配り立つたり座つたり、何んもなく腰落つかぬ風情である。

村長 どうも諸君の態度は甚だ變手古で、賛成の様でもあり、不賛成の様でもあり、薩張分りませんが男らしき態度を以て其の賛否を極めて下さい。

山村正人 諸君、僕は賛成の一人で、最初から起立して居るが、諸君の有様はなんと云ふ臆甲斐ない事です。村内の悪風を改良して、現在及び子々孫々迄の幸福を計る事を起すに付き、假令一人たりとも御異存のあらう筈は萬々なからうと堅く信じて居たのです。之れに反對の者は寶來温泉の利益分配を謝絶り、毒を仰いで自から死地に陥いるのを希望すると同様である。斯様な分りきつた事



を知らないものはない筈であるのに立つと思へば座り、座つたと思へば立ち他人の態度に依つて自分の意志を決すと云ふやうな様子であるが、それでは餘り自分の意志がなさ過ぎるではありませんか。

村民甲乙丙

へエー實は、其のへエ、良い事柄に不賛成と云ふ譯じゃアありませんが實の處（ト云ヒツ、指デ今成鬼六ノ後姿ヲ指ス）が不賛成なんで、へエどうも誠にハヤ相済みませんがどうも矢張不賛成でへエ。

若沼村長

諸君の態度は、大概様子で分つて居ます。就いては今成鬼六君の御意見から先づ伺ふ事に致しませう。

今成鬼六

ハア私の意見をどおつしやるですか實は先刻から先づ以て私の意見を御尋ねなさるかど心ひそかに待つて居た。イヤなに、お尋ねになるのが寧ろ順序だと思つて居た譯だ。御承知の通り此の若沼村四百戸許りの内、私の先代が金を御用立た家は三百八十余戸で、今其の元利金を合せて取り立てる事にすると家土藏は勿論其の敷地まで貰らつても未だ半分も償ふ事が出来ぬ様の次第で言はゞ寝かすも起すも私の勝手だ。何も警察署長や郡長等が無用ざるお世話焼いて呉れるには及ばない。藝妓や酌婦が何百人居らうと、村の者が酒を呑み女



狂ひをせようと梅毒が廣がらうと、ソナ事は勝手にして置いて下さい。愚圖く言へば貸金を全部取り立て、此の村には皆置かぬまでのことだ。それから蘆笛川が自然の水利を興へてあるのに、特に水道を引くなんて、餘り贅澤の事を言はしやる。鱒は泥水許り呑んで居ても、いつでも、ピンく跳ね廻つて居る。第一水道を引くと、なると、又己が一番費用を澤山負擔せニヤアならぬ。成程十三年前に、己の親父の金兵衛も、タツタ一人の弟鬼八も、蘆笛川の水を呑んで赤痢に罹つて死んだ事はあるが、鮎や河鹿ではあるまいし、何時までも、此の川に赤痢の毒

が泳いで居るものか。命よりも己りヤア、マア金の方が大事ジャ。此の問題に付いても折角ではあるが反對する。殊に隔離病舎の修繕なんて、實に詰らぬ事だ。今までの有様で若し不可としたら、野原へ蓆を敷いて病人を臥かして置くのさ。萬一間違つた所で、其の患者が死ぬ迄の事だ。金を投じて修繕するより餘つ程ました。己の意見は大體マアざつと斯様なものだ。

村民 今成の旦那。藝妓や酌婦のことは、今後各自が量見を持ち直し、揮をギット締めてさへ居れば、それほどの事もなからうから、どうでも構はねえが、どんなもんでせうナ



ア水道を引く事と、病舎修繕の事は、若し赤痢や腸窒扶斯が大流行でもしようものなら、第一浴客が来なくなつて、其のあげく、臈が干上がると云ふ譯で、誠に心細く思ふ次第です。私共自分には假令忍ぶとしても、嬬や兒供を空腹で置くこと云ふ事は、實に忍びられない事ですから、此の間に就いては、是非今成さんに御再考を願ひたいと思ひます。

今成鬼六 八釜敷ヤイ。お前達こそ水道を引けば、水を飲むにも便利でよからう。病舎を修繕したら、病んだ時に都合がよからうが、己の財布が甚だ都合が悪いのだ。そんな

事を愚圖く云つて居るより、毎日く汲々と稼いで、利息でもズンく運ぶがいい。ドレ已れば御免を蒙らう。鬼六は憎體に云放つて立ち歸らうとする。村長は聞きかねて、嚴格な調子で、

村長 今成君！少し待つて呉れ給へ、若し君自身が傳染病に罹つた時は、今の病舎で満足して收容されますか。

今成 無論満足して這入りもするが、第一此の今成は傳染病等に犯されて諸君の御厄介にはならんワイ。

彼は棄言葉を殘して、サツサと歸り行く。後蔭を見送つて、其の暴狀を憎まぬはない。



村民一同 實に非道い男だ。何かと云へば二言目には必ず貸金を返せ、愚圖く言へば追つ立てゝ呉れると。之れまで彼奴の爲めに追立を喰つて泣く祖先傳來の住宅や田地に離れて、此の地を立ち退いたものも、彼此三四十人。それも澤山借りた金なら兎も角、村内の者三百八十人が、二十五年前に壹萬圓を連帶で借り殖林した所不幸にも其の山林が、火事で全部焼失して仕舞つたので、其の儘にして置た所不都合にも年五割と云ふ高利を自から證文へ記入して、今日まで知らん顔の半兵衛、愈々何十萬と云ふ大金。處が其の後五千圓づつ二度返金したが、其の請

取を紛失して仕舞つたので、彼奴は之れを好ひ事にし、そんな金は更に請取つた覺えはないと頑張り、今では何事に依らず、少しでも彼奴の氣に喰はぬ事があれば、直ぐに財産の全部を取り上げると、沒義道の事を言ふ。怨みを呑んで彼奴の意に従はねばならぬとは、何たる無念ぞと切齒こそすれ、口に出す者もない。

若沼村長 諸君、かうなると畢竟諸君の罪です。今成君の如き沒義道の人間に對して、普通の人に接する様な考へを有てるのが、抑々の誤りです。それだから、僅少の債權を肩に着て、イザとも言へば直ぐに高壓を加へようとする。



無論彼の遣り方は亂暴極まる振舞には相違ないが、其の根元に遡れば、要するに負債と云ふ弱點が諸君にあるからジャ。決して人を怒らせずに致々と丹精し、後の殘額を一日も早く返金し而して諸君は自由の意士を遠慮なく發揮する様にせなければ、到底諸君の頭の上がる瀬は一生涯ない事になりますぞ。

村民一同 イヤ實に面目ない次第で私共の先祖は、其の初め村の氏神若沼大明神に祭つてある村長さんの御先祖から、現在自分等の住居して居る宅地は、先代が戴いたものだど、チャント祖父から云ひ殘されてある。其の御恩の上

に、其の外ヤレ凶年だとか、家中に不幸が出来たとか、それは、其の都度イカイ御世話様に相成り、又先代秀晴様の御時代にも、大凶年があつて、お上の御年貢が納まらず、村の者三百余人の子分供、一時御立替を願つて置たのも、未だに一人として御返却も致さない。又寶來溫泉が發見せられた時も、時價十萬圓にも値ひする地所を、村の爲じやからとて、全部御寄附下されたのを、私共は唯天からでも賜つたものの様に思ひ、何等爲す事もなく遊んで許り居たので、今日の始末になつたといふものだ。何どもハヤ申譯次第もありません。



村長 アアさうく今其の事で思ひ付いた實は私の祖父が存命中、村の者三百余人が御年貢の滞りで、財産の全部を没収らるゝ場合になつたのを氣の毒に思ひ、今成鬼六氏の親御金兵衛さんより、今から四十年前に五千圓借入れ、全部立替へをして遣つたさうであるが、其の事を私はッイ先達て鬼六君から聞き、誠に驚愕いた次第で、而かも無利子で、融通を受けたと亡なつた祖父の記録に残つて居るのを發見したが、鬼六君からは年四割と云ふ高利を以て計上し十數萬圓の請求を受け、實に自分も當惑して居る次第ジャ。之れもみんな皆さんを思ふ祖父の厚い心

から出た事柄で、今如何ともする事は出來ないが、知つての通り寶來温泉の地所を、全部村へ寄附して仕舞ひ、又五十余年前の大水害で、田畑の過半を流失して仕舞つたので、鬼六君から十餘萬圓と云ふ大金を一時に請求されるど、私の財産全部を提供しても、少々不足するかも知れないと云ふ様な譯で、トント閉口して居る次第ジャ。

村民 誠にどうも飛んだ御迷惑を掛けまして相済みません。何れ是から私共も魂を入れ替へ、一心不亂に丹精して、必ず御高恩の萬分の一を酬いませう。

村民等一同は涙を流して、村長に感謝し、一同役場を去つた



後に村長も悄然として歸宅した。

### 七一 憂一喜

若沼村の村上に四方展開した小山がある。北西は十數丈の斷崖で、芦笛川の清流は、其の麓を洗つてやゝ西南の方向に流れて居る。東南は緩やかな傾斜で、頂上の鬱蒼たる松柏の中には、此の村の開祖たる若沼神社の神々しき社殿が祀られてある。前には宏大なる石造の鳥居が幾百年の風雨に曝され、藓苔斑々として古色を帯びた石段は山麓より山上に通じ、足一たび其の境に臨めば、自然頭が下るやうである。然かも境内數丁歩の廣域に塵一つ止めて無いのは、如





何に此の神社が村民の崇敬を受けて居るかと察せらるゝ。  
此の社殿から少し南に離れて、古風な南向きの長屋門は、尺  
より厚く茅もて葺かれ、其の門に續いて東西北はぐるりと  
堀もて圍まれてある。此の大屋敷の中よりは亭々として  
天をも摩せん許りの數百本の大樺が森々として樹立し、何  
人の目にも數百代を経來つた舊家であることが想像し得  
らるゝ。此所は若沼大明神以來の血統正しき村長若沼秀  
雄の邸宅である。

抑々若沼家の始祖は、數ヶ國を併有して居た源家の嫡流で  
あつたが、或る事情の爲め世の風塵を風光明媚なる此の地



に避け、風月を伴促として、浮世を外に楽しく暮して居たのであるが、徳を慕ひ集ひ來るものが、段々増加するので、夫れに多少宛の土地を與へては開墾せしめ、且つ材木を施して住居を構へさせ、遂に今日の村を組織したものであるから、以前は此の附近一帯悉く若沼家の領有であつたさうである。

若沼家は斯く名門である所から、村民の敬慕は悉く此處に集まり、従つて村の政治は歴代此の家で支配して居たのである。數代前より打續く災難のために、過半の財産を失ひ、加ふるに亡祖父秀晴時代に、何れよりか漂流して來た石工

の今成金兵衛が行旅の途中病を起し、死に頻して路傍に呻吟して居たるを、慈善に富める秀晴はいども氣の毒に思ひ、直ちに自宅へ引取り、懇ろに手當を施し、やうやく全快せしめたる上、小さな居宅を與へて、石工を營ましめ、且つ自分の宅で使用して置た下女を妻に娶らしめるなど、骨肉も及ばぬ親切を施したるに、性根の悪しき金兵衛は、或る時秀晴方の裏の元土藏跡を開墾し、大小數個の壺中には數十萬圓の黄金が充滿してあるを發見したるも、他人の知らざるを僥倖に、之れを全部横領し、俄かに分限長者となつた。

金兵衛には流石に良心があつた。其の一代は若沼家に對



しては事の善悪に係はらず神の如くに敬つて居たのであるが長男鬼六は性來傲慢無禮の質で人情道義の觀念杯は更にない。殊に亡父金兵衛が秀雄の祖父秀晴に五千圓を村民の租税滞納者救護の爲めに無利子で用立て置た證書を發見し、これを幸ひとして次男間鹿造の嫁に秀雄の長女静代を呉れぬかと強請し、これに應ぜぬとて腹癒に年四割と云ふ高利を自分で加筆し、元利金合せて十數萬圓に積算し、秀雄に之を請求する等實に惡悚の手段を運らし、且つ金を鼻に掛け、何事に依らず村長に反對し、兎角村内を騒がし、村運の發展を妨げて居たのである。

秀雄は第二回に開催した村民大會の結果が甚だ悪いので、力なく、悄然として我家に歸つた。

妻登美子は長女静代と共に恭しく玄關に迎へ、「お歸り遊ばせ」と丁寧な禮義作法には嚴格の家庭の狀が窺はれる。

秀雄 静代は今日歸つて來たのですか。

静代 ハイ電報を拜見しますと直ぐ飯田町發貳番で兄さん達、御二人と御一緒に歸りました。

秀雄 ア、さうであつたか。時にお母さまの御病氣の模様はどんなかネ。

登美子 昨日と余りお變りも見ませんが看護婦の話に依り



ますと、脈膊が段々微弱なり、それに衰弱の度も加はつて  
来る模様だと申しますから、先刻田富北岡の兩博士をお  
迎にやりました所、早速お出で下さいまして、只今御診察  
を了り、お歸りにならうとする所です。

秀雄 それは手廻しなことであつた。何んにしても甚だ心  
配のことじゃ。どうも御母さまは種々のことを大層御  
心配なさるから、猶御病氣に障るのだ。可成之れからは  
御耳に入れないやうにして呉れ。どれ奥へ往いて先生  
に御目に懸り様子を伺ひませう。

秀雄は一と間に入り、兩博士に挨拶する。

秀敏 お父さま、今日は祖母様が御大病との電報を受けまし  
たから、早速女子高等師範へは電話で校長殿に事情を話  
して、静代を呼び寄せ、秀利と一緒に飯田町の二番で歸宅  
致しました。が、御見受け申せば、祖母様許りでなく、御父様  
迄が種々に御心配なさると見えまして、非常に顔色が  
悪う御座います。様子を承れば、御無理のないことと  
は思ひます。私、今一年で帝國大學を卒業しますし、  
又弟も非常の好成績で、醫科大學の一年を修業し、妹の靜  
代も來年は卒業することになります。祖父さま迄が御  
父さまの顔色が近來大層お悪いと心配されて居らるる



様ですが是非私共兄弟が業成るを樂しみに御安心を願ひたいものです。

祖父 孫共の云ふ通りじや兎角何事もさう深く心配せぬがよ。

田富主治 結構の御子息方をお持で誠に浦山しい譯であります。御老母様はさう御大患とは思はれませんが、何にせよ、もう八十歳に近ひ御老體のことでありますから、兎角御看護が専一と存じます。

北岡博士 先刻拜診の時、餘り物事を深く苦にせぬ様に、呉々も御注意申上りましたが、例の殘忍酷薄の今成鬼六奴が御

宅の御令嬢を問鹿造の嫁に欲いと云ふのを拒絶した處、先々代の秀晴様に、一時融通した少許りの元金に、高い利息を付けて請求したとかで、夫れを非常に御心配になつて居られる様でしたが、鬼六には實に困つたものですナア。

秀雄 私もつい先日まで其の事を存せず、娘を嫁に呉れろとの申込がありました。が、御承知の通り、未だ在校中ではあるし、旁謝絶すると、御話の通り、一時に十數萬圓の返金を迫られました。實に寢耳に水の催促で驚きましたから、亡祖父秀晴がそんなに澤山の金を借りたことが有るか



どうかと種々記録を調べた所、五千圓を無利子で借り、さうして村民三百有餘名の滞納者を救つて遣つたが、其の儘村民から取り立てるは可愛相だと云ふので、該金の代償として、亡祖父は金兵衛に水澤山廿余町歩を渡したが、其の時五千圓の證書がどうしても見當らぬとて、別に返り證も取らず、見當り次第本證を返すと云うて其の儘にして置いたと記載てありますが、當方に確たる證據がないとて、更に受け付けぬ様な次第で、畢竟亡祖父が、金兵衛より確かな請取を取つて置かなかつたのが手落で實に残念ながら止むを得ぬ次第であります。

北岡博士 お話を承れば愈々以て容赦の出来ぬ奴ですナア。村民三百余人が殖林事業を起すとき、金兵衛から一萬圓を借り、其の後數回返金したるも、矢張本證書が見當らぬとて返さず今日になつて鬼六が其の證文を楯に村民から高利を以て年々利息を取つて居るさうであるが、實に悪懐極まるではありませんか。

田宮博士 イヤ是れは思はず長座致しました。ドレもう一應拜診して歸ることに致しませう。

博士は古屋看護婦に體溫器を挟ましめ、聴て之れを檢し、體溫に異常なきを見、北岡博士と共に病人の側に座りて脈膊



呼吸等を計り丁寧に診察を了り改めて秀雄に向ひ経過は非常に良好です。幸ひ此の工合では余病の併發する模様もなく脈膊も先刻より良くなれる趣を告ぐれば、

登美子 誠に有難う御座ました。兩博士の御治療と看護婦さんの手厚い御看護とで辛らくも老母の生命を取り止め得られましたのは何んと御禮を申上げてよいやら斯様に嬉しい事は御座いません。

秀雄 古屋看護婦さん感謝します。貴嬢が先頃來大病人の看護をするときは決して病人の見張りを怠つてはならぬとおつしやつて、日夜病室を離れず御親切に御看護下さい。

さつた甲斐あつて、めきくと快方に向はれ、父を初め家中の者一同愁眉を開くことが出来ましたのは偏に貴嬢の賚と深く御禮を申します。

看護婦古屋秀子 どんだ御賞に預り却つて御恥かしう御座ります。

秀雄 一に看病、二に薬とか世の診にも申す通り看護は實に大切のものであると云ふ事は常に口には致して居ながら家内は申すに及ばず娘などにも碌々其の學問をさせずに居りましたのは、今更後悔です。貴嬢が見えましてから病室は塵などの立たぬ様に能く掃除しなければい



けないとか、又病人に直接風の當らぬ様に塀風か襖で其所を遮ぎり、又時々室内の空気を交換するとか病室内の温度は日夜變化を來たさぬ様に夏は冷水、又は水を室内に置き、冬は煖爐を入れて可成其の温度を一定に保たしむる様にするとか病人が眠つて居る時は病室を暗くし、眼を醒して良い頃は明るくするとか、ヤレ寝かすときは、どうする、起す時はこうする、見舞に來た人を側へ近づけては不可い、或は病人と永話をさせては悪いとか、皮下放射器法などはかうするとか、それは、種々な御注意がありました、これらは最も必要なことで、一般看護學

なるものは、親とし子としてどうでも心得て置かなくてはならないことじやと、今回はつくづく感じました。何れの家庭でも看護教程の一部位は是非備へさせて置いて、時々研究させる必要があると思ひます。

登美子 本當に看護婦さんの種々御親切に御注意下された御蔭でございます。それについて先頃も家庭衛生講習會で看護學の講習がありましたさうですが、今度は是非出席してお教を受けたいと思つて居ります。

田富博士 御尤です。何處の家庭でも御婦人に看護教程位は研究させる必要があります。



北岡博士 それでは御暇することに致しませう。

田富博士 サア御免蒙りませう。時に古屋看護婦さん、御如才もありませんまひが、患者は老人の事ですから、衾避を用ひる事になさい。

看護婦 ハイ。衾避は先頃來御覽の通り用ひて居ります。

奥より持ち來りて示し、且つ數日來發熱して頭痛が劇しいときは此の衾避の尖に氷嚢を吊るして冷せしことを説明する。

田富博士 イヤ。注意周到です。それから申す迄もありませんが、瘧瘧を起してはいけませんから、時々寢返しをさせ、

又衣服や敷布などに瘧を寄せない様に御氣を付けて下さう。

看護婦 ハイ。私が當家へ參りました時、御躰の骨の處の皮膚が少々赤くなつて居りましたから、早々水に少し酢を加へて洗ひ、御覽の通り丸い氷嚢にほんの少し呼吸を吹き込み布で包みて患部へ敷き、清潔にして置きましたら、幸ひ全癒つて仕舞ひました。

北岡博士 イヤ。釋迦に説法。それでは安心です。之れでは如何に重い患者でも看護の力と相俟つて治癒りませう。田富、北岡兩博士は會釋して辭し歸るを家族一同玄關まで



見送り座敷に戻つて、

登美子 看護婦さん、先程は母が眠り過ると悪いとおつしやつて、電球の明いのと取替へたり、寄り掛りの様になすつたりして置き、時々話を仕掛けて御出でしたが、もう余程起きて御出の事ゆゑ、少し眠る様にしたいものですネ。

看護婦 もう又少しは御寝なつても良でせう。それでは電球を五燭に取り替へ、寄り掛りを取り、私がお腰から下を極く軽く擦りますから、奥さんがお頭の方を軽くお擦りなさつて下さいまし。

古屋看護婦は、登美子夫人の手を借り、病人を横にし、上下を

静かに擦る内、病人は心地よげに、ハヤすや〜と睡入つた。

## 八 鬼の縁談

病室の次の間には、秀就老人を初め、當主秀雄、長男秀教、首を鳩めて、一家に降り蒐れる災難を如何にして防がんか、十數萬圓の負債償還の途をいかにして立てんか、と密々ど相談し合へるも、無い袖は振れぬ、諺の通り、只徒らに太息にくれるばかりである。

鬼六が足下を見て、持ちかけた難題、不法の縁談を拒めば、強慾なる彼が搦手よりの貸金催促は尙厳しかるべく、さりとて静代を犠牲にして、若き一生を悪鬼の餌食に何として





供されやう。それを拒めば財産は差押へられ數代の名家も茲に潰れ、若沼神社の祭祀も絶ねばならぬ。學業中途にある悴や、病床の母に心配をかけねばならぬ。娘の學資も絶ねばならぬ。秀雄が胸中の苦悶は、一層切ないものがある。

折柄登美子夫人は、一葉の名刺を手にして、良人の前に差し出し、愁はしげなる顔にて、いかにせんかど窺へば、秀雄は开を一目見るより、眉根を寄せて暫らくは打案じ居たるに包むべき場合にあらねば、老父に向ひ、

秀雄 御父さん。只今鬼六奴が参りましたが通しませうか。



老父 先方が如何に、犬猫の様な者でも、現在宅に居ながら不在だと云ふのは徳義に反するから、お通しなさい。

秀雄は父の言葉に従ひ、夫人に向ひ此方へ通せと吩咐くる間もなく、已に鬼六は無禮にも座敷迄入り來り。

鬼六 何分御沙汰がありませんねゆゑ、多分借金返却に困じ、留守でも遣はぬかと存じ、失禮ながら押して推參致した。

秀雄 鬼六君甚だ失禮ですが、村長と申せば苟くも一村の儀表となつて、少なくとも村民を善道に導かねばならぬ役目です、勝手上の都合が悪いからとて、留守を遣ふ様な不徳義の者ではありません、御安心下さい。



鬼六 イヤ、之れは甚だ失禮した。時に悴の間鹿造が、どうでもお宅の静代さんを妻に頂きたいと申し、母も又是非にと申して居り、私も矢張同様の意見です。就いては枉て御承諾を得たいと存じ、多分御異存もあるまいと思ひ、今日は悴間鹿造同道にて参上しました。尤も御用立置た元利金十數萬圓は、聲の土産として全部差上げる積りです。

秀雄 折角の御言葉ですが、金錢の爲に娘を嫁に遣つたと云ふ事になつては、世間へ對して面目ない許りでなく、第一祖先初め若沼大明神に對しても、誠に申譯がない次第です。

ヤ。御断りを致します。殊に御話しても無駄のことで、はあるが、君の親父さんに五千圓を金で返さうか、山で返へさうかと尋ねた所、山で返して貰ひたいとの事ゆゑ、水澤山二十餘町歩を全部五千圓の代りにお譲りした所、其の時證文が一寸見當らぬとて返して呉れず、手前の祖父に於ても、お互に懇親の仲じゃから、後にこんな間違ひはあるまいと思ひ、返り證をさへ取つて置かなかつたど、ちやんと記録に残つて居るが、元來水澤山が君の所有になつた時の事を調べて見ると、一見明瞭に解決が得らるゝ事と思ふが一應調査して下さい。



鬼六 そんな事があつたか無かつたか其の邊の事は知らぬ  
が調査する迄もない假に貴方の云ふ通りとするも私  
の方に貸金の證據が立派に保管せられてある以上は無  
請求する権利がありますだがそれは魚心あれば水心あ  
りで静代嬢を嫁に呉れば私の方でもそんな七面倒な  
事は言はずに證文は奇麗に御返し致しますよ。

鬼の顔にも少し笑が浮んで見えるだけ薄氣味が悪い。

蔭で氣づかふ静代は外ながら座敷の談判の様子を窺はんと茶を酌みて盆に載せ優雅に運び來りねんごろに會釋し、客前に差置けば鬼六と間鹿造は其の美しくしき姿に恍惚で、

後姿の次の間に消えるまで見送つた。秀雄は胸も張り裂けるばかりの無念さをヂツと耐へて無言で居る。老父秀就はもう我慢が仕切れず横合から一膝乗り出し、

秀就 左様な義は私が不承知ジャ。キツバリ御斷り申す。

私の所では借金を棒引にして貰ひたい爲に孫女を嫁にやるなどと云ふ様なそんな不見識な事は假ひ一家餓え死んでも出來ぬよ。借金の形に品物が欲しいと云ふなら家財なんでも纏めて持つて行かつしやい。何時でも差上げよう多言は無用。早く歸つて下され。

鬼六 よしよし其の一言容赦は出來ぬ。今に親子の者手を



合せて平身低頭なさるども、肯き申さぬぞ。

鬼六は立上り、戸外に忍ばせ置きし召仕の若者を五六人座敷へ呼び入れ、家財を片端から持出させようとする。

静代に未練ある悴の間鹿造は、氣が氣でなく、父を宥めても、一度相談して呉れとせがむ。その様をかしどもをかし。父母の遺傳の梅毒にて、極めて發育不良なりし爲め、遂に一種の低脳兒たりし彼は、人目も恥もなく、小供のやうに廻らぬ舌で、父に泣付くのである。

いかに強惡でも、子の愛には、我も折れて、鬼六は兩腕拱ぬきつゝ、深き思案に耽つて居た。己が愛兒間鹿造の切なる戀

の願を叶へてやり度いとは思へど、此の場合再び頭を下げ、て無心もなり難く、最初は己れの賤しき心に引き較べ、唯賃金と棒引にせば、静代嬢を貰ひ受くる事いと易かるべしと、高を括つた考への淺墓なりしことを後悔し、加之、秀雄の言ふ通り、亡父が水澤山を賃金の代りに取つた時、證書を返還せざる事を後日發見し、之れに不當の利子を加筆して請求した不法の行爲に付いては、流石に鬼と云はるゝ程の鬼六も良心の苛責に攻められ、如何せんかど躊躇の體であつたが、儘よ、彼等を今一層苦境に陥し入れ、然る後、啖はすに利を以てせば、目的を達するやうにならうと思ひ返し、間鹿造を



蔭に呼び、

鬼六 間鹿造落膽するな。己れに少し考へもあれば、一ト先ヅ先きに歸つて宅で待つて居れ、頓て吉報知らしてやる。

間鹿造 でも御父さん、今一度是非頼んで下さい。

鬼六 アアよし、兎に角歸つて待つて居れ。

間鹿造 それでは、御父さん待つて居るから早くして呉れ。好い年をしなから、十一二の小供のやうに挨拶もせず、ソツソツと立歸る愚さ。

肩張りて命令を待つて居た若者共は、

若者 旦那、先刻からの様子を見ると、どうやら越中禪わつち

共も御祝の酒を呑みそこねたと云ふ譯だ。ヲイ仲間いまゝしいや、片端から家財道具を手當り次第、旦那どんく運んで仕舞ひませう。

鬼六 ナニ運ぶにも及ばない。此の家倉は申すに及ばず家財道具に至る迄残らず取つても、己れの貸金程にならなから、氣の毒ながら若沼君、家族一同を馴き連れて、此の儘明渡して貰はうか。

先刻から障子の蔭にて、一伍一什の事情を聞き居たる静代は、身も世もあられず、此處ぞ一家の浮沈に拘はる大事の場合と思ひ詰めては、矢も楯もたまらず、其の席に進み出で、父



に向ひ、

静代 女の身として差出がましく御座りますが、何事も家のため、どうぞ私を今成家へ御遣はし下さいまし。と、

早や兩眼から湧き出づる熱い涙が頬を傳はるのであつた。秀就は孫静代が家を思ふの餘り、身を棄て、今成家へ嫁つぎ、我が家の破滅を救はんとする可憐の心根に早や老眼に涙を浮べ、

老父「孫女能く云ふて呉れた。御前の殊勝の心には祖父も感謝の辭がない。併し若沼家は假へ茲に滅亡するも、事の理非曲直は天に在ます神様がチャント御照覽あらせ

らるゝ筈じゃ。天道は人を殺さずと云ふから、必らず再興の機會も来り、又若沼大明神の營造業に祭典を行ふ者も出来るに相違ない。金錢の爲めに意志を曲げるのは、平素私しの氣性として許さぬ處じゃ。御前の志は感謝するが、其の義許りは思ひ止まつて呉れ。

其の聲さへも兎角涙に濕り勝であつた。

鬼六 静代嬢の御決心。誠に感心の至り、是れだから悴の間鹿造が是非貫ひたいと云ふのも無理はない。静代さんの云ふ通りになさるのが、お嬢さんの爲め、又御家の爲め、延いては私方の都合も良い譯で、旁以て一擧兩得だと思



ひますが、なんとどうですか。

秀雄 父の申るゝ通り娘が何と申さうとも断然とお断り致します。此の秀雄は金銭の爲に娘は賣りません。かう云へば財産全部を没收するであらうが當方に返り證を取つて置かなかつた過失がある故、萬止むを得ぬ事は覺悟して居る。鬼六君も能く良心に訴へ、其の苛責のない範圍に於て適當の處置を取らるゝ様に望みます。

鬼六 『かうやつて事を分けて頼んでも肯入れぬからには、彼是云ふも無用のこと。サア今日只今、此の家倉敷地まで渡して貰はうから、家族一同何處へなりとも勝手に出て

失せる。

鬼六は威猛高に立退を迫まつたのである。

### 九 鬼の家庭

新らしい石垣の上に、建て並べられた幾戸前の倉は、朝日夕日を其の白壁に射返して、人の羨望の眼を眩ますばかりであるが、屋根棟を凌ぐやうな大木が、屋敷内に一本も見えないのは、成上りの資産家といふことを、一目に見透される。

此處は今成鬼六が亡父金兵衛より不義の資産を譲られ、虚飾に金の費も厭はず新築した一構である。

鬼六は今より二十八年前丁度二十三歳の春、村内頼兵衛の



世話にて同じ村で中流の資産を有して居る山村林造の娘  
おみつと云ふを妻に娶つた所間もなく妊娠して、其の年の  
暮に男子を分娩し孝治と命名し最初の内は蝶よ花よと育  
てゝ居たが如何なる天魔の魅入りけん孝治六歳の秋頃よ  
り鬼六は村内醉夢樓の藝妓丸子に迷ひ家を外にの不行跡  
に、妻おみつはそれとなく屢々意見を加へしも更に聞き入  
れぬより遂に之が因となりおみつは重き病の床に就き、日  
に日に瘦行く身よりも愛兒孝治の行末を案じ煩うて居た  
が、ついに歸らぬ他界の人となつた。鬼六は結局之れを好  
い事に思ひ間もなく藝妓丸子を世間憚らず、我家に引き入

れ、其まゝ後妻に直した。其の年九子は長女して代を産み、  
其の翌年長男間鹿造を生んだ。それからといふものは、邪  
見の丸子は先妻の子孝治が何かに付け邪魔になり、此まゝ  
置いては我子間鹿造に家督を相續させる譯には行かぬと、  
次第に孝治を虐待し、遂には大膽にもこれを毒殺せんとし  
た。忠節の下女は早くもそれと悟り、此の一大事を孝治に  
知らしたので、孝治は今猶豫なり難しと、僅かの金を懐中  
なし夜に紛れて我家を忍び出で、十歳の暮降り積む吹雪を  
冒して東京に出奔し、名も山村滿造と改めて苦學十有餘年、  
今は東京帝國大學に若沼秀教等と共に螢雪の苦學を積ん



で居るのである。

鬼六は秀雄一家を放逐し、財産全部を没收して、我家に立ち歸り、

鬼六 アア草臥た。時に丸子、どうも少し見當が外れて甚だ残念だ。實は御前ども相談した通り、あの證文を突き付け、十數萬圓の貸金を遣るから、静代を呉れると云へば、否應なし、二つ返事で、首を縦に振ることと思つて、間鹿造をも連れて往つた所、静代は承知であつたに拘はらず、頑固一點張の老爺奴が詰らぬ屁理屈を並べ、どうしても應じないんだ。

丸子 ちよつとまあ旦那も待ちなさい。静代さんが私しの悴に、どうでも來たいつて、それはそれは本當に嬉しい事。まあ間鹿造一寸此處まで御出で、

間鹿造

お母さん、本當に静代さんが來て呉れる、嬉しいなア。

鬼六 これ、能く話を聞かなければ分らぬ。なんだ騒々しい。一體静代は若沼家が滅亡するか、或は一家が離散するとかの大事の場合、それには換へられぬと云ふので、死んだと思つて嫁に行くと言つたのだ。處が親父の奴、東京の往還の様に、やれ人道じやの車道じやのと、一向譯の分らぬこと許り云ひ、なか／＼承知しないから、腹立たま



ぎれに若沼一家の者を追つ立て、家財建物の全部を没收して仕舞つた。今更まさかに袖乞も出来まいから其の内には必らず先方から前非を悔いて謝罪つて来るに違ひない。其の時こそ勿體をつけて静代を貰つて遣らうか。

間鹿造 御父さん、そんなことをしては静代さんが可愛想だ。折角己れの御内儀さんになりたいちゆうものを、そんな亂暴をすると、御父さんを此の家から追ひ出して仕舞うぞ。

丸子 間鹿造、何を言ひます。御父さんが種々工夫して静代

さんを御前の御内儀さんに貰つてやると云ふのだから、少の間辛抱して御出よ。

間鹿造 本當なら己らア嬉しいや。時に御母さん、しこ代姉さんは何んだか此の間から毎日泣いてばかり居るよ。

丸子 本當にしこ代には困ります。もう二十歳にもなつて、譯も言はずに泣いてばかり居て仕様がありませんよ。あなた少し譯を尋ねて見て下さい。

鬼六 私も實は困つて居るのじや。今日は幸ひさう用もないから能く尋て見よう。呼んで来い。

間鹿造 姉やん、御父さんが呼んで居るぞ。返事をしなア。



やアイ。又泣いてらア。

鬼六 間城造、其の呼び方は何と言ふ事です。

丸子 しこ代一寸こちらへ御出でなさい。

しこ代はハイと答へしぶく出て来る姿は鐵砲玉の鑄型のやうに重い天然痘を患つたる痕跡、歴然として其の醜さ譬へやうもない。

鬼六 お前に聞かうくと此の間から思つて居たが、多忙しいため、どうく其の儘にして居たが、お前は此の頃一と間に計り引き籠り泣いてばかり居るさうだが、それには何か理由があるだらう。他人は此處に一人も居ないか

ら、遠慮はない隠さず話なさい。

しこ代 御父さんは若沼様の静代さんを御覽なすつて、どうお思ひでした。

鬼六 仲々別嬪で、利發で悴より私の方が惚れたやうな次第さ。

丸子 しこ代は改まつて妙なことを聞くじやありませんか。

間鹿造 静代さんは己れが御内儀さんにしたいと云ふ位だものを。見ぬ昔の小野小町か衣通姫とでもと云ひたい様なそれはく非常の川嬪で。姉やんのやうな痘痕面



じゃアねエヤ。

し、代 御母さん、それだから私は悲しくて悲しくて堪らな  
いのです。私と静代さんとは而も一緒に村の學校へ行  
く頃世間の人には二人を此の山里には珍らしい美人だ  
鄙には稀れな、何れ劣らぬ桃櫻と評判されましたことは、  
子供心にも嬉しく思ひ、今だに耳にチャンと残つて居り  
ますのに、私が丁度十歳の其の春學校の先生が、今成さん  
は未だ種痘をしませんねえ。今日は『ゼンナー』とか  
云ふえらい御方が發明せられた種痘と申して、本痘瘡を  
豫防する最も安全の方法が出来て居りますから是非此

の際種痘をなさいと懇ろに言はれましたから、歸宅ると  
直ぐ御父さんに此の事を申し上げると、何にあんなこと  
をする奴が馬鹿だと言つて種痘をさせては下さらぬ故  
遂に其の翌年天然痘に罹り、命だけは助かつたものの、殘  
念に遺された此の姿。鏡を見る度自分ながらも愛想が  
盡き、お父さんを御怒り申さぬことはありません。殊に  
此の間静代さんの美しい姿を見るに付け、一入殘念で堪  
りません。あのとき私しが願ひした通り種痘をさせ  
て下さつたら、今間鹿造が静代さんを是非御嫁に貰ひた  
いと云はるるやうに私にも嫁に欲しいと云ふ方が澤山あ



つて定めし引張風の様な騒ぎをするでせうに。こんな  
姿になつたため、今の盛りに誰一人何とも云つて呉れる  
ものもなく、村内の祭のそれへさへ耻しくつて出られな  
いとは實に情けない身です。思へばいつそ淵川へでも、  
身を投て死んで仕舞たいと思つて、此の頃毎日泣いて許  
り居るのです。

丸子 コレして代泣てお呉れでない。假へお父さんが何と  
おつしやうが、私から其の時御異見して、お前に種痘さ  
せるが當然であつたのに、其の儘に棄て置いて、どうと  
う此の始末。勘忍してお呉れ、これして代。

と聲も涙に濕り勝ちである。

鬼六 何にもさう泣くことはない。痘痕と思ふから悲しい  
が、靨の鈴熟だと思へば、少しも耻しい事はない。

口には言へど、流石に我子の愛に引かされて家中曇る五月  
雨にいぶせく暮れた。

## 十 苦 學

浅草水族館の右手にあるベンチに腰打掛け足の疲を休め  
て居る二人の新聞賣子がある。是れ一人は破産の爲め一  
人は繼母の虐待に耐へずして、共に上京苦學しつつある若  
沼秀教と山村滿造とである。





秀教 山村君今日の収入はどうだ。僕はどうも甚だ振はんで、今日はパンを得ることが困難じゃ。

満造 僕は幸ひ上野廣小路で、非常に賣れたので今日は意外の利益を得た。君が不印でも大丈夫だ。安心して居給へ。それはさうと、秀利君と静代嬢は、もう來さうなものじゃ。

秀教 静代は今日、日比谷に國民大會があつて、群集するから、多分秀利と一緒に其の方面で活動して居るかも知れん。兎も角、もう來るだらう。今暫時は休憩して、四人同資の計算をしよう。時に山村君、君と僕等兄弟が、かうやつて



合宿し、共に苦學して居るんたが、僕は未だ君の本籍を知らない。一體君は何處です。

滿造 僕は種々込入つた事情があつて、今暫時の間、君に本籍を告げることを猶豫して呉れたまへ。僕は却つて君等兄弟三人の身の上について甚だ不審に堪へぬ事がある。是非話し給へ。それは外でもない、君等は昨年迄は立派に國元から學資を送つて貰ひ、何不自由もなく、僕等迄で、君の御蔭で學資を助けて貰つた譯だが、今年から遽かに送金の途が絶えて、兄弟三人共新聞賣子となり下がり、苦學をなさると云ふのは、余程其の間に深い事情が伏在し



て居るだらうと思ふ。其の大要を差支なくば是非話して呉れ給へ。

秀教 何だそんなことか。それはかう云ふ譯さ。僕の家は甲州の若沼村と云ふ景色の非常に良い所で數百年前僕の先祖が其所へ居を構へ、風月を友として居た所近隣の者が大分集つて來るので悉く土地や家を與へて、追々移住せしめ、其の結果今は四百戸許りの村をなして居るが、山中の寒村ゆゑ至つて貧乏人許りで困つて居た所が自家所有の山に圖らずも寶來温泉と云ふラヂウム、エマナチオンを含んだ名湯が湧出るを發見したので、之を村

へ全部寄附して、其の利息で優に生活が付く様にしてやつた所、今度は小人閑居すれば不善をなすとやらで、追々働く奴が少なくなり、酒は呑む女狂はする。そこで村内七八分の者が梅毒に罹つたり、又は酒毒の爲に其の子供が君恐るべしだネ、碌な者が生れない。大概不具者や虚弱の者許りで、之れでは國家の前途が實に案じられると云ふので、父が職工團體を連れて入浴に來た駿河臺の東洋新聞社長國野基君及び土地の警察署長等の助力を得て、其の改善に種々奔走したが、先々代の當主秀晴が路傍で病んで居るのを不惑に思ひ、助けて遣つた今成金兵衛



の悴鬼六と云ふが、其の大恩を忘却して今では少し許り金のあるのを肩に着て、何事に依らず反對し、折角の計畫も水泡に終つたのさ剩さへ父が、金兵衛から五千圓借用し、其の借金の代り水澤山二十余町歩を以て返却した所、其の時證文が見當らぬなどと、口實設けて、其の書類を返さず。其の儘になつて居つた所、今度鬼六の後妻の子に間鹿造と云ふ、父母の梅毒遺傳で身體の發育が非常に悪い薄馬鹿の悴に、妹の靜代を嫁に貰ひたいと申込んだのを、斷然謝絶したら、君驚くじや無いか、無効の證文を箱の底から掘り出し、それに年四割の利子を加筆して、十數萬

圓を請求し、遂に父母や老父母やは遺憾ながら涙を呑んで、祖先傳來の家倉全部を擧げて鬼六に取り上げられたので、家中の者は泣く泣く村端の地藏堂へ一時引移り、手馴れの業を営みては、辛くも露命を繋ぎ居ると云ふ様な話すも情けない次第で、實は僕等も云はゞ鬼六の爲めに今日此の苦學をさせらるゝことになつた譯さ。

消遣 それは、今成と云ふ奴實に怪しからんことをする野郎だ。併し君積善の家に餘慶ありと云ふから、天日ならず幸福を君の家に與へるに相違ない。君決して失望落膽するには及ばんよ。それはさうと秀利君と靜代嬢



はどうしたらう。

秀教 噂をすれば蔭とやらあれあすこに二人の姿が見える。  
大分儲かつたど見えて何時になく二人ともにこゝして来るじやアないか。

満造 なる程之れは頗る有望だ愉快〜。

兩人話して居る所へ秀利、静代が来る。

秀利 兄さん、山村君實に愉快です。今日の成功をお喜び申します。

満造 秀利君、何いふ成功です。先づ話し給へ。

静代 お兄さん、餘り早くお話しなすつては不可ませんよ、も

う少しおどつときにませう。

秀利 さうさ、それも良からう、それでは暫時沈黙か。

秀教 おい、じらすなよ。静代も近頃仲々人が悪くなつたね。早く話せ、おい、静代。

静代 お兄さん、それじやア話して上げませうね。山村さん、喫驚しちやあ嫌ですワ。

満造 よし〜、それでは僕は驚愕しない様に臍下丹田に心を置めて拜聴しよう。

静代 オホ、ハ、開んなになさらなくつても可ワ。

秀利 それでは僕が代つて話さう。天は自から働いて取る



者に與ふと云ふ金言は實に千古の眞理だ。樂をして居て美味しいものを飽き足らず喰ふと云ふのは不養生して居ながら其の身の健康を天に祈る様なもので寧ろ我々の目から見れば憫然の者だと思ふ。兄さん及び山村君天は我々苦學力行の四人を恵んで今日靜代と二人で文部省の前を通ると豈圖らんや兄さんが一番山村君が二番で高等文官試験に合格して居た。

秀教、山村の兩人は思はず歡喜の聲を擧げる。

靜代 いやな山村さん、突然に開んな大きい聲をして私びつくりしたワ。

秀教 山村君不思議だね、此の春、法科大学卒業の際も僕が一番で君が二番。然かも二人共優等を以て恩賜の時計を拜領し、今日又僕と君が一番、二番の好成绩で合格するなんて、之れも兄弟四人が未明に起きて水浴をしたり、鐵亞鈴を振るとか、深呼吸を行ふとか、絶えず健康くと叫び、健康でなければ其の身體から幸福を生み出す事が出来ないよと云つては、衛生に注意しつゝ、勉強した御蔭だね。

滿造 僕の今日あるは全く君等三人の賜です。僕は性來虛弱の質で學業の成績も甚だ良くなかつたが、君等と同宿してからは朝起、水浴、靜座法、深呼吸、杯の方法を行ふ様に



なり、殊に衣類は假へ粗末でも、不潔では健康を害すと云つて、静代さんが常によく洗濯をして呉れ、夜具は一日の勤勞を慰むべき安眠の保護者であるからと云つては、天氣の日には必ず日光に曝し、敷布、寝巻も又時々洗濯して下さるので、斯様に健康の身體になり、加之に昨年迄は少なからざる學資をさへ補助せられ、御蔭を以てこの成功を見るに至つた譯で、深く感謝します。

秀利 まだ外にも喜ぶべき事があるのだ。兄さんに山村君は先日外交官の試験も受けたんでせう。歸りに牛乳屋へ寄つて官報を見ると、兄さんは合格の上米國大使館付

一等書記官で、山村君は外務省參事官に孰れも任命されて居ますよ、實に喜ばざるを得んやです。

滿造、秀教の兩人は喜色滿面に溢れ、天にも昇る心地して雀躍するのであつた。

静代 私は兄さんと山村さんの成功をお祝ひしようと思つて、幸ひ今日は平日より澤山新聞が賣れましたので、三鞭酒の代りにサイダーを一瓶買つて來ました。

秀利 僕は静代と相談して着の代りにビスケットを買つて來たから、此所のベンチで、取り敢へず心許りの祝杯を舉げ様じゃアありませんか、この他にも祝すべきこと多々



ありだ。山村君も兄さんも共に喜んで呉れ給へ。静代は女子高等師範学校の成績が優等で卒業し、此度直に女子大学の教授に任命せられました。又僕も幸ひ医科大学入學以來毎學期が優等であつたので、今回官費生として留學せしむるとの通知がありました。

満造 ヤアそれは誠に重疊く。斯く四名のものが、然も同時に慶事があるとは、何んたる目出度ことだらう。これも畢竟天が吾等四人の者の勤勉躬行と一つは衛生上に於ける周到なる注意を以て身體の健全を圖りし結果とを御感賞下さつた賜であらうと信じます。

秀教 さア、兎も角、サイダーの口を切つて祝杯を擧げることとしませう。静代、さア一同に酌をして呉れ。アア溢れるく。さア山村君も澤山やり給へ。

満造 女子大学の教授のお酌とは恐入ります。謹んで頂戴します。

秀利 僕は之から勉學する學生の身分だ。静代は先生になつたんだから、其の祝に僕が酌んで上げよう。

静代 山村さんや、兄さんは人をあだてなさること。兄さんは是から醫學博士になるんですから、其の前祝にお酌をしませう。



満造 秀利君と静代さんには僕がお酌しませう。  
と、兩人に酌ぐ。

此の時、秀教は秀利、静代の兩人を呼び共に盃を持って立ち、  
秀教 山村君、僕等三人は此所で祝杯を擧ぐるの喜びを、先づ  
以つて故郷の祖父母及び父母様達に報告しようと思ふ。  
どうぞ君も御両親に御報告下さう。

秀教は秀利、静代の兩人を顧み、共に高く盃を捧げ、  
秀教 郷里に詫しき煙を立て、居らるゝ祖父母并に父母様  
よ、吾等兄弟三人は天の御恵を以て、無事學業を卒へ、吾及  
び静代は目出度就官することに成り、秀利は官費生とし

て洋行することに成りました。何れ吉報は今夕書面に  
認めて詳細申送りますが、今此處に同宿の山村君と共に  
祝盃を擧ぐるに當り、先以て祖父母并に父母様に此の喜  
びを捧げます。

これを見て、山村は何故にや、急に顔を曇らせ、悄然として涙  
を呑む状。見咎めし秀教は、

秀教 山村君は何故、此の目出度席で泣くんですか。

満造 秀教君、アア、僕程不運の者は此の廣い世の中に又  
ど二人はあるまいと思ふ。君等兄弟が故郷に御出の御  
両親方に對し、此の喜を分つのに、僕許りは或る事情の爲



め多年螢雪の功成りやつと一人前の人間になつた喜を知らせる者が現在此の世に在りながらそれを知らずこの出来ないので何んたる因果の身の上であらう。彼是考へては實に斷腸のせつなさ。と顔を背向けて悲哀を紛らはした。

### 十一 奇遇

山村が悲哀に沈む状に深き仔細あらんと察したる秀教兄弟は何と慰むべき言葉を知らず折角の喜悅も打消されて何となく同情の涙を浮べた。

折柄東洋新聞社長國野基は、其の場を通りかゝり若沼兄弟

を見付け。

國野 貴君は若沼さんの御兄弟でしたな。

秀教 これは國野先生久瀧でございました。

國野 イヤ實に久瀧ですな。先年僕は職工団隊を引連れて、御郷里へ参つた時は、御尊父には一方ならぬ御接待を蒙りました之が御縁で御懇親になり、書面の往復は始終致して居たが、本年旅行の序に御郷里へお立寄すると、イヤ變り果たる御尊父の御境遇。僕も大に御同情して、御慰め致したが、其の時御尊父の御話に御子息兩人と令嬢は東京に出て苦學なさると聞き及ばずながらお力になら



うと、諸方を捜したが頼と見當らず、今日まで其の儘になつて居つた所、今度御兄弟が揃も揃うての御成効。實に立志傳中の美談、僕の新聞に其の事柄を記して、世に知らさうと實は社員に命じ今朝から貴君の居所を尋ねさして居た所です。然るに偶然出先でお目にかゝるとは、これも御縁ぢや。先づお目出度い。改めてお祝を致します。

秀教 イヤ何も彼も御厚志の段は、篤く御禮申上げます。

國野は不圖山村に目を着け「其の御人は御友人ですか」  
秀教は改めて山村を國野に紹介する。

國野 ア、貴君が山村満造君でしたか。お名前は承知して居ります。矢張破格の任命受けられた人が、若沼君の御親友とは頼もしい。友人は御互に擇び合ふべきものですな。ヤア何うも御目出度いことで。

國野は何か思ひ出したやうに、

國野 時に若沼君、僕は御尊父から御頼を受けた事がある。

それは忤が成効の曉若し適當の者があつたら世話をしてくれいと懇々頼まれましたが、今度外交官として海外へ赴任なさるゝには、尙さら好い配遇者を得なければなりません。幸いです。幸ひ僕の親しくして居る山梨子爵の令嬢ふ



じ子嬢は静代さんと一緒に優等の成績で女子高等師範を出られた才媛ですが、此の令嬢なら實に相應すると思ひます。貴下に御異存さへ無くば、早速話しを致しませう。

静代 ふじ子さんなら私と同級で、それはく温和しい學問もお出来なさる立派なお方です。

阿兄さま、何卒其方を姉様と呼べて下さい。

秀教 實に御厚意は難有うございますが子爵の令嬢がどうして私などの處へ嫁いで下さいませう。それに釣合ぬ縁です。御厚意は難有く受けませんが、御断り申します。

國野 さう言はるゝも御尤ぢやが人の價値は人格にある。

山梨子爵は決して令嬢を華族や富豪にはやらぬといふ主義で、有爲の人材に嫁がせたいと其の物色を平素私に御懇願があつたのぢや私の鑑別で決ること故、この儀は狂げて承諾して下さい。

オ、噂をすれば影どやら不思議にも彼方へふじ子嬢が見えた。何んといふ奇縁か、これも全く神の紹介といふもの、さア若沼君幸ひ茲で見合をし給へ。

斯る事とは知らず、山梨家の令嬢ふじ子は侍女のお駒を従へて、浅草見物に來たのであつた。



ふじ子嬢 お駒や彼所が水族館だネエ。

お駒 はいさうで御座ります、つひ先日彼所へ大きな虎が来たさうですよ。

ふじ子嬢 お駒何を言つてるんです。水族館に虎が来るものですか、それは花屋敷よ。

お駒 あゝさうでした、花屋敷と間違へてオホ、。

ふじ子は早くも静代を見付けて近寄り。

ふじ子嬢 あれマア静代さん、好い處でお目にかかりました。

此の度はまア御目出度ございます、オホ、。

静代 おや、ふじ子さん、今日は御散歩でございますか。

ふじ子嬢 静代さん、お浦山敷でございます。東洋新聞に『苦學生の光明』と題して、貴嬢初め御兄弟三人が苦學して御成效なすつたことが詳しく載つて居りますのを、拜見致しました。私なども自力で卒業することが出来なかつたのを本當に残念に思ひますワ。

國野 ヤアふじ子嬢ですか。度々御屋敷へ参り、御邪魔許りして居りますが、今日は貴嬢に能い御方を御紹介しませう。秀教君、山村君、この令嬢が常に平民主義を鼓吹して居らるゝ山梨子爵の御令嬢ふじ子さんです。

ふじ子さん、此方が静代さんの兄さん秀教君です。



ふじ子は平素の活潑にも似ず顔赤らめて恥かしげに會釋する。秀教もさまり悪げに、

秀教 靜代からは時々御噂を承つて居ました。お初に御目に懸りました、何分御心易く願ひます。

靜代 ふじ子さん、これが私の直ぐの兄でございます、それから此方が矢張兄と一緒に合格なされた山村さんですワ。ど一人く紹介する。

ふじ子嬢 左様で御座いますか。と、

之れにも同じく祝辭を述べ且つ靜代嬢とは親しき學友の間柄丈けあつて互に將來のことも語り合ひ、又國野社長

には父より時々遊に來られ度希望ありし旨杯告げ、聴て一同に懇懃の挨拶をなし後日を約して立ち別れた。

國野 時に山村君君の生國は何處で御親父さんの御名前は何んどおつしやりますか。

滿造 僕は國に實の父と繼の母とがありますが不幸にして公白に名乗ることの出来ない事情のある實に不運兒です。

國野 あうさうですか、實は僕は舊會津藩であるが、維新の當時官軍に抵抗したあの騒ぎで家族は八方に離散し一人の妹よね子は流浪して甲州若沼村の山村林造と云ふ者



の妻となり、其の娘のみつと云ふが縁在つて今成鬼六に  
娶られ孝次と云ふ男子を産んだが、みつは此の兒が六才  
の折死んで仕舞ひ、孝次は憐れ繼母の手に養はるゝ身と  
なつた處が、繼母の虐待に堪へ兼ね十才の冬何れへか逃  
走して、それかぎり未だに所在が分らぬと云ふ、これ等の  
事情がやつと此の頃に至り判明したので、實は先達て私  
かに若沼村へ行き、よね子と四十余年振りで面會し、秀教  
君の御親父とも會つて種々事情を聞きし、何んでも東京  
に居るとの風説だと、聞ては來たが實は雲を掴む様な探  
もので、僕も頓んど閉口して居つたが、其所に居る山村君

はどうも僕の妹よねに瓜二つといひ、母方の姓を名乗つ  
て居られるので、それでお尋ねした譯です。

山村満造は國野の物語を聞き、さては國野は現在自分の大  
叔父であつたかと夢に夢見る心地して、久敷吾身の不遇を  
啣ち浮世の味氣なきを嘆じ居りたる満造は、空谷の聲音、其  
の嬉しさ譬ふるにも、もなく萬感胸を衝き、嬉し涙と諸共に、  
「叔父さん」と高く一聲叫んで、しつかと其の手に絶りつき  
満造もし私が今成孝治です。孝治です。實は父が餘り殘  
忍非道の行ひ多く、搦て加へて繼母の邪見恐ろしく、間鹿  
造に家督相續をせしめん爲め、遂には僕を毒殺しようど



したので、今は一時も猶豫はならじと、我が家を振り棄て  
東京に参り、今日迄ありとあらゆる艱難辛苦、逆も筆にも  
紙にも盡されません然るに圖らずも、此所に居らるゝ秀  
教君兄弟より掛なからざる援助を仰ぎ、差したる不自由  
もなく、今日の成功を見るに至りました。それに引きか  
へ父鬼六は無効の證書に暴利を加へ、然かも大恩ある若  
沼家の財産全部を横領し、御家族一同を貧苦に陥いれ  
しと聞き、今日迄本名は勿論、其の生國すら名乗ることが  
出来なかつたのです。今こそ何にもかも申します、亡祖  
父金兵衛は、秀教君の倉跡を開懸中、地中より多額の黄金

を發見しながら、之れを隠蔽した事を、子供心に聞き知つ  
て居たのです。秀教君、秀利君、静代嬢、僕が父に代り、此處  
に割腹して、祖先以來の大罪を謝します。

孝治は隠し持つたる短刀、抜く手も見せず、脇腹目菟けて、グ  
ザト許り突き立てんとせしを、秀教早くもそれと見て取り、  
其の手をしつかと押へ、

秀教 これ早まり給ふな、山村君君の親父さんの行爲こそ、實  
に憎むべき次第ではあるが、君には何等の怨もない。君  
子は其の罪を憎んで人を憎まずと云ふぢやないか、殊に  
是迄一つ鍋の飯を喰ひ、共に苦學したのも、畢竟佛家の所



謂前世の宿縁じや、僕は君を兄弟と思つて實は内心其の薄命を氣の毒に思つて居た。君さういう短慮は斷じて止し給へ。僕はもう家内の者一同を引取つて、安樂に孝養を盡せる身の上となつたから、今更鬼六君に對しても怨を含んで居る譯はないよ。

國野 アア甥であつたか、父鬼六の子とは更に思へん、善い性質じや、秀教君兄弟も折角止めて下さるのだ、サア其の短刀は己れに渡せ。

國野は孝治の手より短刀を無理に撈ぎ取り、兎に角此所は往來自宅へ打揃うて來られよと、駿河台の我邸へ伴ひ去つ

た。

## 十二 積善の家に有餘慶

若沼村の片ほとりに軒傾きたる茅屋を借り、昨日に變る細き生活を營める若沼秀雄父子四人は昔時の恩義を忘れざる十數名の村民に助けられ慰められつゝ、鬼六が取り上げざりし僅か斗りの荒畑を開懇し、辛くも其の日を送りつゝ、居るのである。

秀雄 親父さん困つたものですね。村の風儀が一年増に悪くなり、今年になつてから最う懲役の處分を受けたものが十七名酌婦と逃走した者が七人破産して夜逃げした



者が三十人こんな工合になつて来ては醫者が匙を投げた病人と同じく、逆も容易には挽回する事が出来ませんね。

秀就　いかにも御前が村長の時代に種々苦勞したが、あの時分には未だ良かつたが、もう遅い然し其の内には段々眼が覺るだらう。

妻登美子　阿母さま此の頃は大層顔色がお宜しくなりました。誠に嬉しう存じます。之れは隣りの孫どんが、かういふ工合に嚮を倒にし、眼と嚮の肩とを水平にして見ると、中に塵や滓のあるが能く分る、其の塵や滓のあるのは衛生

上大害があるから、一本づゝ調べて買った「サイダー」だと云つて持つて来て呉れました。此處の日光の當らない涼い處へ置きますから、御上り下さい。

母登美子　私しの大病が段々と薄紙を剝ぐ様に治癒つたも嫁女が心盡しの看護、それに手馴れぬ草鞋造や縄なひなどして私に種々のお肴を買うて下さる嬉しさ、鬼六に借金しんぐんの二重取をされて、こんな有様に成り下つたが、之れも時世で仕方がない。其の中には孫共も學校を卒業して来ようと思つて楽しんで居る程に嫁女も安心して下さい。

登美子　病は氣から起ると云ふことがありますから、決して



御心配なさらなない様にして下さいまし。私はこれから今夜寝る布団を日光に曝して参りませう、と出でて行く。秀就秀雄の父子は臺所にて草鞋を造り居りしが、秀就は秀雄に向ひ、

秀就 嫁女は此の夏衛生課の御役人達が、大勢お出でし、お開きになつた家庭衛生講習會へ行き講習を受けて來てからと云ふものは、何も彼も衛生と其の事にのみ能く注意して呉れるので、此の頃村に腸窒扶斯が流行し、昨日も六人焼かれたさうだが、嫁女の注意で安心して飲み食が出來て有難い譯だ。

秀雄 御父さん、御覽なさい。私が村長の時、芦笛川の水は傳染病の流行する時は危険だから、水道を引く様にと協議したが、鬼六が反對した許りに、其の儘になり、今日其河水の爲めに斯のやうに悪疫の大流行、逆も取り返しが附きませぬね。

此の時登美子は晝餉の仕度をなすべく、其の準備に取掛つた。

- 一、先づ火を焚きつけ、七りんに小鍋を掛け、沸騰せる湯の中に布巾を入れて、煮沸し、
- 二、これを洗面器に取り、ぶらしにて十指の爪を能く洗ひ



次で手の全部を洗ひ、

三、箸にて煮沸せる布巾を引き上げ、能く絞りて食台を拭き、

四、戸棚より煮沸水にて洗ひたる茶碗及び箸等を出し、食台に載せ、一々蠅除を以て覆ひ、

五、御飯の菜をまた戸棚より出したる清潔の皿に盛り、これをも蠅除にて覆ひ、

六、切盤庖丁は塵除をなして、日光に干し於けるを取り入れ、それ亦煮沸せる布巾にて拭きたる后、香の物を切りて皿に盛り、蠅除を覆ひ

七、洗面器の煮沸水を取り替て置き、

登美子　もう御飯になりましたから、どうぞ此の煮沸水で、皆さんお手をお洗ひ、お口をお嗽ぎになつて御飯をお上りなさいまし。

秀就　嫁女や、御前近頃は中々御飯の仕度をするに念が届きません。今鍋の中で煮て居るのはお肴かい。

登美子　いいエ、御祖父さん、これは布巾ですよ。世間では布巾を使い放しにして置きますが、あれでは茶碗や箸にまるで不潔物や黴菌を塗り付ける様なものです。あんなことでは、迎も一家の健康などは保たれません。殊に傳



染病でも流行する際は、一層危険で堪りません。御覽なさい、平常不潔にして暮して居らるゝ家庭から傳染病が發生したり、又斯様な處には屹度傳染して行くのを見ても分りませう。これが恐ろしさに、かやうに致します。

此の時駐在巡查山川清、田富醫學博士、清野衛生組合長と共に健康診断のため、若沼方表へ來り、其の入口に足部消毒器を備へ、『家中へ御入りのお方は必ず足部を之れにて消毒して下さい』と記し札を掛けてあるのを見て、

山川巡查 感心ですナ。これを御覽なさい。足部消毒器をちやんと入口に備へ付けて置くなんて、まるで防疫事務所

へでも行つた様です。

清野衛生組合長 イヤ若沼家の衛生に注意の能く行届くことは實に有名のもので、便所等は申す迄もなく、台所などの清潔なこと、隅から隅まで殆んど光る様です。

田富醫學博士 兎に角折角参つたことゆゑ健康診断を行ひませう。無論斯様な家庭に傳染病患者などあらう筈はありませんなア。

衛生組合長は、足部の消毒を忘れ、其の儘戸を明け御免なさいと入らんとせるを、山川巡查は蒼黄て引留め、

山川巡查 組合長君、足部を消毒してから御入り下さいと書い



てありますよ。

清野組合長 やれく、飛んだ粗忽をした。どれく、足部を……と云ひつゝ、下駄の消毒を行ひ居ると、

登美子は、組合長が無消毒の下駄にて、假令一足たりとも、其の儘踏み込みたるより、匆々如露を持ち出し、其の個所へ石炭酸を撒き居る。そこへ再び組合長這入り、足袋の上からシユウく、と石炭酸を掛けられ、頗る恐縮の體である。

登美子 これはどうも粗忽致しました、

と早速如露を引揚げた。

山川巡査 秀雄君御在宅ですな。今日は田富博士及び衛生組

合長同道にて、健康診断に参りました。貴方のお宅は有名な衛生家揃ひですから、間違はなからうが職務ですから念の爲め御診察致します。

田富博士 御隠居様はどうですな。其後は頓と伺ひませんが、最うすつかり御快癒ですか。お顔色も大層良ろしい、どれ皆さんも此處へゐらつしやい。

そこで一人く、丁寧に診察しつゝありしが、此の時山川巡査は勝手の處に小冊子のあるを見付け、

山川巡査 奥さん、これは何ですか。一寸拜見しても宜しう御座いますか。



登美子 それは先頃家庭衛生講習會の折筆配したものが  
が亂雑の書方で、お恥しう御座りますから、御覽下さる丈  
けは御勘辨下さい。

清野組合長 さうく、先頃村の學校で、七日間講習が開かれた  
時、僕の宅では生憎娘が他出中で講習を受ける事が出来  
なく甚だ残念に思つて居た。幸ひ其の筆記があれば是非  
拜見さして下さい。

登美子 誠にお耻しう御座りますが、それでは御覽下さい、  
と差出せば、山川巡査は受取り。

山川巡査 清野組合長聞き給へ、僕が讀むから。ウ、成程く

ウウ、ハ、ハ、成程。

清野組合長 山川君、計り一人で、感心して居つたでは、薩張僕  
には分らない。聲を立てて讀み給へ。

山川巡査 成程、それは失敬した。夫れでは聞き給へ。

幸福の家庭とは、年中一人の病者もなく、常に春風怡樂  
の聲に満さるゝ家庭を云ふのである。

如何に父子兄弟相和する家庭なりとも、此の内に一人  
の病者あらんか、忽ち秋風落莫の感を生ずるであらう。  
されば家庭に於ける衛生は、平和圓滿の福音であつて、  
不衛生の陰には、常に秋風が起り、易く涙が忍び、貧乏神